

20th Anniversary Commemorative Booklet of the
Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

熊本大学大学院
社会文化科学教育部
教授システム学専攻
設立 20 周年記念誌

教授システム学専攻同窓会 協賛

教授システム学専攻
20周年記念事業実行委員 編

2025 年 5 月 31 日

目次

祝辞	2
第5代(現)同窓会長 ワード弥生	3
第4代同窓会長 山田紀昭	4
第3代同窓会長 加藤泰久	5
第2代同窓会長 早川勝夫	6
初代同窓会長(終身名誉会長) 加地正典	7
博士前期課程 専攻長 喜多敏博	8
博士後期課程 専攻長 戸田真志	9
第2代博士後期課程専攻長 都竹茂樹	11
初代専攻長 鈴木克明	13
教員一覧	14
2024年度専任教員から一言	15
歴任教員名簿	18
同窓生一覧	21
修士(学術)および修士(教授システム学)	22
博士(学術)	42
研究業績・活動	45
2006年度～2024年度の研究業績	46
主な研究業績リスト	48
本専攻を題材にした学会誌論文や著書リスト	53
熊本大学教育実践力開発拠点受講プログラム一覧	54
熊本大学GSIS公開講座	56
GSIS同窓会	57
思い出	58
20周年記念事業	74
熊本大学大学院教授システム学専攻の歩み	
編集後記・20周年記念事業実行委員	

祝辞

歴代同窓会長と歴代専攻長から20周年のお祝いの言葉をいただきました。

第5代(現)同窓会長 ワード大竹弥生



この度はGSIS設立20周年おめでとうございます。僣越ながら2023年からGSIS同窓会会長を務めさせていただき、このような大きな節目に一緒にお祝いできますことを心より嬉しく思います。昨年からのこの記念行事に向けて準備をしてくださった大学の皆様、GSIS修了生からなる実行委員の皆様にも心より感謝お礼申し上げます。

さて私とGSISとの出会いを少し述べさせていただきます。それは運命的なものでした。2015年に一度病棟業務から数年離れ、看護の国際認証取得の準備と共に看護教育やシミュレーションセンターの立ち上げに関わらせて頂いた時期、GSIS修了生のAさんが教育研修部のスタッフへ研修のあり方について講義をしてくださったのが、最初にID理論の魅力に触れたきっかけでした。

それから医療IDセミナー(旧ARCS /ISD)に参加して、課題は多い中でもやりっぱなしにしない面白い教授方法を体験し、多様な職種の中での社会人の学びのあり方、学びって楽しいもの！それを感じられる教育を自組織に提供したい思いで2019年GSIS正規生の門戸を叩きました。私の科目履修を含めた3年間の社会人学生生活は、山あり谷あり色々ありましたが、同じ船に乗った仲間と主に歩み、自分のやりたい研究をブレずにサポートしてくださった先生やゼミの仲間(14期ゼミ含む)のおかげで勝ち取った修士でした。

私は卒業後、緊張の糸が切れたように一時的に放心し、海や山に出向いてアカデミックな生活から少し離れた時間を過ごしていました。しかし、その後、同窓会役員としての活動を通して、修了生の皆さんが多様な分野で活躍されている様子を目の当たりにし、それぞれの道でGSISの学びが生かされていることを実感する機会が増えました。卒業後も惜しみなく学習の場を提供してくださっている先生や修了生諸先輩方の姿には本当に頭が下がります。また時折まなばナイトに参加させて頂いていますが、毎回新しく学べた喜びと仲間との再会に心が温かくなるのはGSISの魅力の1つだなあと感じます。そのたびに、自分自身の背筋が正される思いになり、改めてこの学びの価値を再認識しています。まさに再びGSISマインドが刺激され、これまで停滞していた自分の目標実現に向けて、ようやく本格的に動き出す時が来たのではないかと感じている今日この頃です。

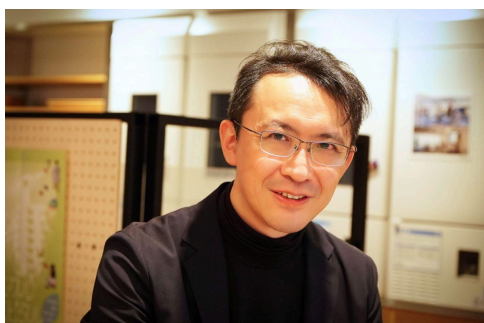
最後になりますが、COVID19の影響で研修のスタイルが変化し、対面での研修の集客は激減、オンデマンドのeラーニング学習教材による研修は安定した集客につながっている傾向です。そのような大きな変遷の中で、私たちGSIS修了生が、ISDを活かした魅力ある研修や授業設計の実践を継続し、その評価を学会などで発表していく姿勢が、更なる教授システム学の発展につながっていくものと信じています。

今後ともGSIS同窓会活動へのご理解とご協力お願いいたします。

GSIS14期生 同窓会会長 ワード 大竹弥生

第4代同窓会長 山田紀昭

20年の歩みを祝して



教授システム学専攻(GSIS)創立20周年を迎えるにあたり、心よりお祝い申し上げます。

初代加地会長、第2代早川会長、第3代加藤会長の後を継ぎ、この記念すべき節目にご挨拶できることを大変光栄に存じます。

専攻が設立された2006年から約20年、私たちを取り巻く環境は大きく変化しました。当時、スマートフォンはまだ一般的ではなく、SNSも黎明期でした。加藤会長が10周年時に予見さ

れたように、AIの急速な発展、さらにはコロナ禍で一気に進んだオンライン教育の浸透など、情報技術と教育の融合は想像を超えるスピードで進展しています。

そんな時代だからこそ、インストラクショナルデザインの原理と最新テクノロジーを融合させた教授システム学の価値は高まっています。私たちGSIS修了生は、この変革の時代における「学びのデザイナー」として重要な役割を担っています。

私たち修了生は皆、「専門性を生かして専攻の発展・向上に寄与できる」という12番目のコンピテンシーを授かっています。カークパトリックのレベル4を見据え、学びが社会的成果につながるよう、同窓会活動を通じて支援してまいります。

私も微力ながら同窓会の発展に尽力いたします。会員の皆様には、これまで同様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

20周年という節目を新たな出発点として、GSISと同窓会がさらに発展し、社会に価値を提供し続けることを心より願っております。

第3代同窓会長 加藤泰久

熊本大学教授システム学専攻創設20周年に際し、心よりお祝い申し上げます。専攻が創設された当時は、スマートフォンやSNSが教育現場に本格的に導入される以前の時代でした。その後の10年間で、ICT教育環境の充実などにより、情報技術と教育の関係は劇的な変貌を遂げました。そして、新型コロナウイルスへの対応を経た今日、私たちは新たな転換期に立っております。

インストラクショナルデザインの歴史的背景を踏まえると、現代のAI技術の急速な進展がもたらす影響は、まず企業実務や企業研修、社会人教育の分野で顕著に現れると予測されます。

また、初等・中等教育や高等教育においても、AI技術を活用した様々な実践が展開されている現状から、こうした革新は教育全体の在り方を根本から変革する可能性を秘めていると言えるでしょう。

しかし、いかにAIが進化したとしても、「効果的な学習とは何か」「人はいかに学び、成長するのか」「何を学ぶべきか」という本質的な問いに対する答えを導き出せるのは、インストラクショナルデザイナーの専門知識と豊富な経験にほかならないと確信しております。単なる知識伝達の自動化ではなく、学習者が主体的に学び、確実にスキルを定着させるための環境づくりこそ、今後ますます重要になるでしょう。

この20年の歩みの中で、熊本大学教授システム学専攻は数多くの優れたインストラクショナルデザイナーを輩出し、企業、教育機関、官公庁、そして多様な学習現場において確固たる存在感を示してまいりました。生成AIの時代において、学習環境の革新を担う専門家として、私たちの役割は一層広がることが期待されます。

この記念すべき節目にあたり、今後の10年、さらにはその先を見据え、インストラクショナルデザインの知見を最大限に活かし、社会全体の学習環境向上に寄与していきたいと考えます。

熊本大学教授システム学専攻の20周年を迎え、専攻のさらなる発展と、卒業生の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

第2代同窓会長 早川勝夫

教授システム学専攻が20周年を迎えること、心よりお祝い申し上げます。

講座の立ち上げから20年にわたり毎年生徒を受け入れ、育てていただいた先生方に深く感謝いたします。社会人を対象にされているので、様々なクセを持った生徒に対して個別に対応いただき、卒業まで導いてくださいました。さぞや大変だったろうなと想像いたします。バックヤードでの先生方のボヤキが聞こえてきそうです。

同窓会では、加地初代会長をはじめ、私を除く代々の会長が協力して、教授システム学での学びを広げる活動に携わられています。卒業された方々は、教授システム学に直接携わる方、学びを活かしてご自身の仕事に活かされている方など、様々な場でご活躍されています。そのような活動が、なかなか動かない教育の分野での変革に繋がっているのだらうと思います。

例えば、教授システム学専攻の3つの柱の中の、インストラクショナルデザインの認知も、少しずつ浸透してきていると感じます。また、成人学習理論を題材にテレビドラマが作成されました。このように日本における人材開発に対する捉え方も、少し変化してきたようです。

今後も、教授システム学専攻が継続され、卒業生はそれぞれの分野で活躍が続くことがとても重要なのだらうと思います。現在携わられている方々には、これからも地道に活動していただくことを祈念しております。

(卒業後に3期生で立ち上げたTDMC社設立時の写真(皆若い):現在は吸収合併される)



初代同窓会長(終身名誉会長) 加地正典

2006年にスタートした教授システム学専攻が20周年を迎えることを、嬉しく、また誇らしく思います。おめでとうございます。この間、立ち上げから長年に渡り関わってこられた先生方や同窓生の皆さんの、熱い想いがいまま成長を続けていることに、なかなか相応しい言葉が見つかりません。

教育に、研究に、その多くを注がれている方もいれば、この学びを本業に活かしながら、自身の軸を持って地道に仕事をされている方も多くいらっしゃいます。いずれにしても、すぐに結果が出る魔法はなく、何年十何年、何十年とその道に向き合い続けている方が、本当に多いと感じます。

教授システム学との関わりは、その長い道の一つの側面でしかないかもしれませんが、こうして多くの修了生や履修者がいて、それぞれに活躍されていることが意義のあることで、貴重な財産でもあります。我々にとっても、そして社会にとっても。

20年の間に、テクノロジーも大きく進化しました。研究や実践に与えた影響も大きいですが、貪欲にそれらを取り込み、課題の解決に役立つ教授システム学の発展に、これからも期待し関わっていけたらと思います。

2025年2月 JICA海外協力隊の任国ポツワナにて 加地正典(GSIS 一期生)



教授システム学専攻20周年に寄せて

2006年――

日本では、ライブドア事件、第一次安倍内閣の誕生など、社会の変化を感じる出来事があり、世界では、Twitterがサービスを開始し、後に社会の情報発信のあり方を変えていくこととなるなど、新たな時代の胎動がありました。

そのような変革の時期に、熊本大学においてもまた、大きな挑戦が始まりました。

「教授システム学専攻」という、全国的にも類を見ない、教授システム学に特化した大学院が創設されました。

それは、想像を超える速さで関係者の熱意と努力が実を結び、設置が実現したものです。当時そのスピード感に驚きと戸惑いを覚えたことを、私は今も鮮明に思い出します。

開設以来、教授システム学専攻は、年に一度しか大学院入試がないにもかかわらず、常に志願者数が入学定員を上回り続けてきました。

新設の大学院専攻として、これは異例のことであり、専攻の創設コンセプトが、社会の求めるニーズを的確に捉えたものであることを示す証左であり、また、多くの優れた修了生が各界で評価を得て活躍していることも、それを支えていると感じます。

教授システム学専攻では、専攻設立当初より「4つのI」を軸にしていることはご案内のとおりですが、以下の4つの「あい」も大事にしてきました。

- 学生の互いの知見を活かす学び合い
- 明日の仕事に役立つ社会人のための学び
- 経験を活かす深い大人の学び
- 与えられるのを待たない自律的な学び

... ええと、なんとかうまく言おうとしてやり損なった感がありますが、要するに、現実世界での問題意識や豊富な経験を起点とし、学生同士が相互に触発され、協調しながら新たな知見を得て、自身の仕事や社会に還元できる力を自律的に育てていくことが根底に流れている大学院であり、それはこれからも変わらず堅持していく所存です。

20周年を迎えるにあたり、これまで支えてくださったすべての皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後も教授システム学専攻は、時代の変化に柔軟に対応し、未来を担う人材育成に貢献すべく、教職員一同、努力を重ねてまいります。

引き続き、皆様のご指導とご支援を賜りますよう、お願いを申し上げます。

博士後期課程 専攻長 戸田真志

教授システム学専攻が創設から20周年という大きな節目を迎えるこの時期に、本専攻博士後期課程の専攻長という身に余る重責を拝命しておりますことを、誠に光栄に感じております。

私は2012年4月に熊本大学に赴任し、教授システム学専攻とのご縁をいただきました。前回の節目であった10周年の際には、本学赴任より既に数年が経過しておりましたが、当時はまだ専攻の活動にも十分に慣れておらず、お恥ずかしながら「お役に立っている」という実感も持てずに、日々右往左往していたことを思い出します。専攻の活動を牽引されていた先生方や、積極的にご支援くださる同窓生の皆さんの姿が、当時の私には非常に頼もしく、また眩しく映っていたことを、まるで昨日のこのように記憶しております。

あれから10年、今なお右往左往、試行錯誤、紆余曲折の毎日ではありますが、多少なりとも本専攻に貢献できているのであれば、これに勝る喜びはありません。

私の専門はメディア工学、画像工学、ヒューマンコンピュータインタラクションであり、本学赴任前は教授システム学とはやや異なる分野で研究活動を行っておりました。私にとって新しい学問分野で活動する機会を頂けたのは、本専攻がこの世に存在していたからに他なりません。まずは、鈴木克明先生をはじめ、「本専攻をこの世に生み出すこと」にご尽力いただいた全ての皆さまに、心より感謝申し上げます。

さて、本専攻のウェブサイトには、「開設以来、教授システム学に関する体系的な教育研究を行い、教育効果・効率・魅力の高いeラーニングを開発・実施・評価できる高度専門職業人等を養成することを目的として教育研究活動を展開してきました。博士後期課程では、この分野に対する社会的ニーズや学問的要請に応える大学院教育の深化及び学術研究の高度化を推進し、同分野の発展・普及を主導できる教育研究者等を養成しています。」とあります。ID(インストラクショナルデザイン)やLT(ラーニングテクノロジー)をキーテクノロジーとし、教育の質的向上を目指して、教授設計、学習科学、学習支援システムの設計・開発・評価等を総合的に探究することで、「人がより良く学ぶとはどういうことか」「その学びをどのように支援すべきか」という本質的な問いに対し、理論と実践の両面から真摯に向き合い、教育の未来に貢献することを使命として、皆さまと共に歩んできた、ということかと思えます。

この20年間、社会は大きく変化してきました。ICT/AIの進展や学習者ニーズの多様化、リカレント教育の必要性の高まり、さらには2020年以降のパンデミックによる教育環境の激変など、教育を取り巻く状況は日々変化しています。教育DX、生成AIの活用、学習データの利活用といった新たな課題も指摘されています。その中で、教授システム学のアプローチは、実証的な分析に基づいた教授設計や、学習成果を可視化する評価手法、多様な形態での学習環境の設計・開発など、多くの現場でその有効性が示されてきているかと思えます。本専攻では、社会との接続を意識した実践的な試みやその知見が数多く蓄積されてきましたが、これらが、社会の変容に対応し、新たな教育課題を解決する一助となることを確信しています。

本専攻では、大学院のみならず、公開講座や履修証明プログラム等、多様な教育サービスを通じて、理論的知見と実践的スキルを融合したカリキュラム/プログラムを提供しています。それぞれの場において、多様なバックグラウンドを持つ学生の皆さんが集い、学び合い、切磋琢磨してきました。学生の皆さんの多様性に加え、教員や同窓生の皆さんの多様性が融合し、多面的で多角的な学びが実現できていると自負しています。修了された皆さんの多くは、学校教育、企業研修、医療福祉分野、自治体、大学・研究機関など、さまざまな分野で活躍し、組織を牽引し、教育の未来と教授システム学の進展に貢献して頂いています。これこそが、専攻としての誇りであり、最大の宝であり、今後のさらなる発展への大きな励みとなっています。

この節目の年にあたり、あらためて専攻のこれまでの歩みを振り返るとともに、今後のあり方についても考える機会としたいと思います。教授システム学は単なる教育手法の開発にとどまらず、学びの根幹に関わる価値や目的を問い直す学問でもあるかと思えます。今後も本専攻は、「学ぶこと」の本質を問いな

がら、学びの質を高め、より良い社会の実現に寄与していく所存です。

「IDに出会って衝撃を受けた」「私が学ぶべきはコレだと思った」「悩んでいたが霧が晴れた」「もっと学びたい、試したい」...教授システム学の「効果・効率・魅力」に衝撃を受けられ、本専攻の門を叩いてくださった皆さんからしばしば伺いする言葉です。そして、教授システム学の本質を「効果的」「効率的」「魅力的」に伝えることが本専攻創設時に掲げられた設計思想と理解しています。

学問分野としての教授システム学が持つ衝撃に甘えることなく、創設時の思想を尊重しつつ、社会や時代の変容に即応し、専攻での学びの過程においても衝撃を与え続けられるように日々のカイゼンに努めること、これが、後進たる現専任教員の役割であり、責任であると心得ています。

最後になりますが、本専攻の20年の歩みを支えてくださったすべての教職員、学生、修了生、連携機関・団体の皆さま、そして地域・社会の皆さまに心より感謝申し上げます。皆さまのご理解とご支援があつてこそ、今日の私たちがあります。これからも、教授システム学専攻は、理論と実践を架橋する教育研究のフロンティアとして歩みを進めてまいります。今後とも一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

第2代博士後期課程専攻長 都竹茂樹教授

熊本大学大学院 教授システム学専攻20周年に寄せて

熊本大学大学院 教授システム学専攻(GSIS)の20周年、誠におめでとうございます。

私は2008年、GSISの修士課程に第3期生として入学し、学生として学ばせていただきました。当時は、自分が将来GSISの教員になるとは想像しておらず、2012年より教員としてお世話になることとなったのは、まさにご縁の賜物だと感じています。

私がインストラクショナルデザイン(ID)を本格的に学ぼうと決意したきっかけは、2005年、40歳でアメリカの公衆衛生大学院で学んだ経験にあります。そこでの学びは、正直これまでに経験したことのないほどハードなものでしたが、とても刺激的で、「学ぶことはこんなに楽しいんだ」と日本の一方向的な教育に慣れていた私にとっては、まさにカルチャーショックでした。

その後、ご縁あって高知大学の公衆衛生学教室に専任教員として着任。アメリカでの経験を活かし、意欲的に教育プランを練りましたが、現実には思い描いたような授業は実現できませんでした。振り返れば、アメリカの授業は「学習者が主体となり、教員は必要に応じて適切な支援をする」という、まさに“おとなの学び”でした。その学び方を、日本の大学教育にどう取り入れるか悩んでいたときに出会ったのがGSISでした。

GSISでの学びは極めて実践的で、大学授業の改善はもちろん、当時私が取り組んでいた生活習慣病患者のオンラインでの支援にも大いに役立ちました。

また、その学びの「方法」自体も非常に新鮮でした。四国の大学で専任教員として勤務しながらオンラインで学ぶというスタイルは、貴重な経験となりました。今でこそリカレント教育やリスキリングが一般的に語られるようになりましたが、当時はまだ珍しく、まさに時代の先端を行く学びの場だったと感じています。

2012年には、再びご縁をいただき、教員としてGSISに加わりました。1年前まで学生だった専攻の会議に出席し、学生支援について議論するのは、最初は違和感もありましたが、「自腹で、頼まれてもいないのに学びに来る(もちろんポジティブな意味です)」社会人学生の皆さんの支援は、本当にやりがいのある仕事でした。

とくに、学生の皆さんが自らの業務で成果を上げ、新たなキャリアに挑戦する姿には、私自身も多くの勇気と刺激をもらいました。この場をお借りして、学生の皆さまの努力に心からの敬意を表すとともに、感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

ここまでGSISの素晴らしさについて述べてきましたが、当然ながら課題も感じています。その一つが、「インストラクショナルデザイン」というアプローチが、なかなか社会に広く浸透していかない点です。IDについて個別に説明すると、多くの方が共感を示してくださいます。しかし、大学教員や企業の教育担当者であっても、「ID」という言葉すら知られていない現実があります。

海外の大学では、インストラクショナルデザイナーが教員、図書館司書、ICT専門家などと連携しながら授業設計を行う事例が多く見られます。それに比べると、日本の現状には忸怩たる思いを抱かずにはいられません。

なぜ普及しないのかを自問したとき、私自身の反省として感じるのは、せつかくIDの効果を検証しても、それを発表する場が教育工学系の学会に限られていることです。それはそれで重要ですが、もっと積極

的に「IDを活用した〇〇の成果」などを社会、他分野の学会やワークショップなど、より広い場に発信していく、くわえて社会実装をして更なる成果をあげることが、今後求められるアクションではないかと感じています。

幸いにも、GSISの社会人学生の多くは、何らかの専門性を持っておられます。そのため、各自が「自らの専門分野 × ID」という新たな分野を切り開いていくことで、IDの普及のみならず、日本全体の教育力や人材育成力、さらには日本の発展にも貢献できるのではないかと考えています。これらの思いは、自戒の意味も込めて記させていただきました。

GSISのさらなる発展は、そのような未来を切り開くためにも欠かせません。教員は時代とともに移り変わりますが、今の教員、学生、そして教員OBや修了生が一丸となって、今後GSISが発展することを心より祈念申し上げます。

大阪大学 スチューデント・ライフサイクルサポートセンター 教授 都竹茂樹

初代専攻長 鈴木克明名誉教授

アウトプット目線でプロセスを点検して若さを保ってほしい

成人式おめでとう

GSISが成人を迎えるということは、初期の頃に関係を持った人は、20年近くもIDに邁進してきたことになりますね。それなりの成果が実感できているといいですね。ぜひ近況をお知らせください。その一方で、最近IDに目覚めて奮闘中、あるいは免許皆伝で世の中に出たけど成果がなかなか上げられずに悩んでいる人たちもいそうです。免許皆伝はスタート地点。まだまだ成長途上ということ。悩んだらGSISに戻ってきてください。アドバイスをあげたくて待っている教員や先輩がたくさんいます。

思えば20年前。GSISの立ち上げに関与した人たちは若かった。今と比べると20歳も年下でした(当然)。当時の日本に存在しないものを創っていくという興奮と、それを支えて応援してくれる人たちへの感謝に満ちていた。GSISそのものを実験場として、大型資金を次々に受け入れる幸運も手にしながら、新しいIDを果敢に取り入れ、それぞれ「それなりの」成果を上げ続けてきた。歴史が長くなるにつれて「守るべきもの」が増えてくるなかにおいても、攻撃は最大の防御であるという精神を忘れずに、若さを保ってほしい。原理主義に陥らず、死守すべきものは堅持する一方で、新しいことにどんどんチャレンジしていく姿を見せ続けて欲しいと願っています。

「守るべきもの」は何か。それはアウトプット目線です。何をやっているか(つまりプロセス)はどんどん変えていい。GSISに迎い入れる人達は時代とともに変わっていくでしょうし、世の中もどんどん変わるでしょう。その中で守らなければならないのは、しっかりとアウトプットを出し続けること。大学院だから重視すべきアウトプットは研究成果。研究成果を出すことで次の支えとなる資金も獲得できる(これはインプットかな)。研究成果につながるのは教員と教員が免許皆伝する修了生の実力。開設当初から掲げている「修了生コンピテンシー」の中身は変えていくとしても、看板にふさわしい実力を身につけ、修了後も活躍が期待できる仲間を増やし続けていく。これがGSISコミュニティの拡大となり、次の世代をGSISに惹きつける好循環を維持するための要件。アウトプットから逆算してプロセスをデザインする。IDのこの主張こそが「守るべきもの」ということなのです(もうおわかりと思いますが)。

私自身は、GSIS退職後も現職において、研究継続の機会をいただきました。研究者人生の最後の取り組みとして、科研費基盤研究「教授設計理論のコア概念の整理と学習経験デザイン構築に関する実証的研究(24K00457)」に挑戦しています。まだまだアウトプットしますので、ご期待ください。GSIS同窓会にお世話になって不定期発行を続けている「IDマガジン」(<https://idportal.gsis.jp/magazine/>)の連載も当面、継続しています。バックナンバーにもなかなかよいことが書いてあるので、折に触れて見返していただければ幸いです。

GSISが20周年を迎えるにあたり、関係諸氏がそれぞれが歩んできたこれまでを振り返り、アウトプットから逆算して今後をデザインし、互いに刺激を与え・受けながら、若さを保っていけるよう祈念します。

熊本大学名誉教授・武蔵野大学響学開発センター長／教授
教授システム学専攻初代専攻長 鈴木克明

教員一覧

2024年度専任教員の先生方から20周年にあたっての一言をいただきました。
また、歴任教員名簿も一挙掲載です。

2024 年度専任教員から一言(五十音順)

江川 良裕(えかわ よしひろ)

主な担当科目 : eラーニングコンサルティング論、職場課題実践研究



民間企業の出身という視点から考えると、本専攻での20年は不思議な経験でした。学問の世界観からすると、教育学の実務志向ですよね。学問としての独自のディシプリンは未成熟で、色々な分野から理論や技法をパクっていますよね。本専攻の学生のほとんどが社会人で、自分自身の現場の問題を解決したいと持ち寄ってきます。この解決こそが教育学で最も重要視する「目的」であって、問題の解決に合わせて、学問としての内容や形が変えられる「軽快さ」を忘れないようにしたいものですね。

川越 明日香(かわごえ あすか)

主な担当科目 : eラーニング概論、ポートフォリオ演習 I



私は2024年度からGSISに携わり、右も左も分からない中で新入生の担任を務め、あっという間に一年が過ぎました。その中で特に感じたことは、GSISは「縦と横のつながりが非常に強い」ということです。今年で創立20周年を迎え、これまで多くの大学院生がここで学び、先生方を始めとする多くの方々がその学びを支えてくれたらと思うと、その重みに改めて感銘を受けます。今、こうして専任教員として身を置けることを誇りに思うとともに、これからのGSISがより大きく発展していけるよう、尽力していきたいと考えています。

喜多 敏博(きた としひろ)

主な担当科目 : 学習支援情報通信システム論、基盤的プログラミング



おかげさまで、教授システム学専攻は設立20周年を迎えることができました。教員の所属組織は数々の改組を経ながらも、当大学院は力強く歴史を刻んでいます。これもひとえに、日頃よりご支援・ご尽力くださる皆様のおかげと思っています。「20年」という歳月は、教育と研究において挑戦と成長を重ねた歴史であり、多くの優れた人材が巣立っていった時間の証でもあるなと思っています。

久保田 真一郎(くぼた しんいちろう)

主な担当科目: ポートフォリオⅡ、eラーニング協働開発実践



本専攻のコンピテンシーをもとに設計するフレームワークはロバストで、このコンピテンシーをもとにした設計は本専攻が芯をぶらすことなく活動できている重要なポイントだと思います。その質を高め保持しつつ、本専攻を昇華し、次の新しい専攻を構築する段階にきているのではないかと期待と緊張感をもっています。本専攻にかかわっていただいている先生方、同窓会、在学生のみなさまとともに緊張感をもって一歩ずつ前に進みたいと思います。

合田 美子(ごうだ よしこ)

主な担当科目: インストラクショナル・デザインⅡ、外国語教育におけるeラーニング



2010年にGSISに着任し、今年で15年を迎えます。10周年の際のメッセージを振り返ると、「学び」に対する思いは変わっていないことを実感しました。そこでは、「教育やテクノロジーの怖さと面白さを経験し、教育工学の研究と実践を楽しんでいる」「学びは、失敗を超えた成功の喜びを伴う、アクティブで楽しい経験であり、質の高いインストラクションとインタラクションが重要」と述べていました。この10年で、コロナ禍やミシガン大学での客員研究員としての経験、そして2人の子供の誕生など、社会と個人の状況が大きく変化しました。その中で、「学び」とは何かをますます深く考えるようになりました。次の10年は、より自由に「学び」の探究を続け、新たな挑戦を重ねていきたいと思っています。

戸田 真志(とだ まさし)

主な担当科目: 基盤的情報処理論、教育ビジネス経営論



2012年にGSISとご縁を頂いて10年余り、赴任当初は右往左往の毎日でしたが(今も変わりませんが)、20周年を迎える今、微力ながらこの学問分野や専攻に貢献できているようであれば、これに勝る喜びはありません。赴任前は想像もしていなかった新しい風景を目にすることができている「今」に感謝しつつ、多くの方々にこの風景を「効果的に」「効率的に」「魅力的に」ご覧頂けるよう、専任教員として力を尽くして参ります。

中野 裕司(なかの ひろし)

主な科目: 学習支援情報通信システム論、遠隔教育実践論



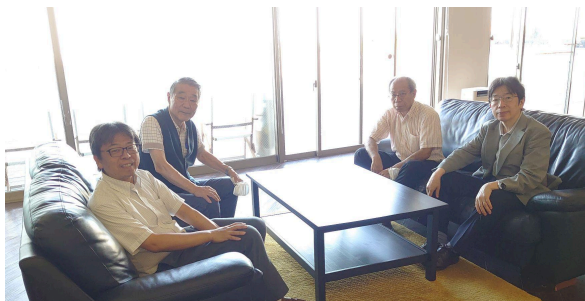
当専攻では、第1期生以来、さまざまな業種や立場の優秀な方々が集まり、活発な学びが行われてきました。特にオンライン・ディスカッションが想定以上に盛んで、修了後も強いつながりを持つコミュニティが形成されたと思います。学会などでもその影響は大きく、専攻関係者が中心となって動いていると感じる場面もあります。これまでの成功に満足することなく、これからの10年も、専攻と同窓コミュニティのさらなる革新的な取り組みを期待しています。

マジュンダール・リトジット

主な担当科目: eラーニング実践演習I、ラーニングテクノロジーIV



GSIS members are true lifelong learners who bring in their experience and motivation to change the status quo of their organization through instructional and learning technology design. To interact with such a group that balances professional skills and aptitude to learn is extremely enriching experience as a faculty. Over this period of 20 years GSIS has built the legacy and nurtured such an encouraging learning atmosphere. Cheers to its future!



歴代教員名簿(五十音順)

* 2025年3月時点

名前	在籍期間と役職	主な担当科目
秋山 秀典	H18-H25 教授	遠隔教育実践論
東 徹	H18-21 教授	情報技術教育方法論
天野 慧	R4-5 客員助教、R6- 客員准教授	基盤的教育論 ほか
荒木 淳子	H23-R4 非常勤講師	経営学特論
池上 敬一	H26- 非常勤講師	医療教育におけるeラーニング
石田 百合子	H30-R3 非常勤講師	インストラクショナル・デザイン I ほか
入口 紀男	H18-23 教授、H24-客員教授	ネットワーク上の知的財産権及び私権
宇佐川 毅	H18- R2 教授	高度情報通信技術の教育利用 ほか
宇野 令一郎	H26- 非常勤講師	遠隔教育実践論
江川 良裕	H18 助教授、H19- 准教授	eラーニングコンサルティング論 ほか
大森 不二雄	H18-22 教授、H23-28, R5- 客員教授	グローバル教育戦略論 ほか
加藤 浩	H20- 客員教授	質的研究法演習(博士後期課程)
甲斐 晶子	H30-R3 非常勤講師	基盤的情報処理論
川越 明日香	R6- 准教授	eラーニング概論 ほか
喜多 敏博	H18 助教授、H19 准教授、H20- 教授	学習支援情報通信システム論 ほか
北村 士朗	H18 助教授、H19-R2 准教授、R3- 非常勤講師	インストラクショナル・デザイン II ほか
久保田 真一郎	H20-25 助教、H25-28 非常勤講師、H28- 准教授	量的研究法演習(博士後期課程) ほか
桑原 千幸	R6- 非常勤講師	教授システム設計研究論演習
小池 啓子	R5- 非常勤講師	インストラクショナル・デザイン III
合田 美子	H22-R5 准教授、R6- 教授	インストラクショナル・デザイン III ほか
古賀 暁彦	H18-24 非常勤講師	教育ビジネス経営論
小林 雄志	H27 特任助教	基盤的情報処理論
小松 秀圀	H18-23 非常勤講師	職業人教育訓練におけるeラーニング
近藤 喜美夫	H18-19 非常勤講師、H20-25 客員教授	遠隔教育実践論
今野 文子	R6- 非常勤講師	ラーニングテクノロジーIV
櫻井 良樹	H22-28 非常勤講師	職業人教育訓練におけるeラーニング
篠原 正典	H18-19 非常勤講師、H20 客員教授	コンテンツ標準化論
芝崎 順司	H20- 客員准教授	量的研究法演習(博士後期課程)
柴田 喜幸	H18-R5 非常勤講師	教育ビジネス経営論
下山 博志	H18- 非常勤講師	職業人教育訓練におけるeラーニング
杉谷 賢一	H18- 教授	ネットワークプログラミング論

鈴木 克明	H18- R4教授、R5- 客員教授	インストラクショナル・デザイン I ほか
高橋 暁子	H24・H26-27・H29- 非常勤講師	統合型カリキュラム設計論 ほか
高橋 幸	H18-19 講師、H20 准教授、H21 非常勤講師	外国語教育における e ラーニング
田口 真奈	H18-19 非常勤講師	高等教育における eラーニング
竹内 愛	H23-25 非常勤講師	グローバル教育戦略論
竹岡 篤永	H24- 非常勤講師	統合型カリキュラム設計演習 I ほか
都竹 茂樹	H25- R4 教授、R5- 客員教授	医療教育における eラーニング ほか
寺田 佳子	H24- 非常勤講師	職業人教育訓練における eラーニング
徳村 朝昭	H21- 30 非常勤講師	国際協力における eラーニング
戸田 博人	H25- 非常勤講師、H26- 客員教授	職場課題実践研究
戸田 真志	H25- 教授	マルチメディア利用研究論演習(博士後期課程)ほか
永井 孝幸	H21-27 准教授	e ラーニング実践演習 I
長岡 健	H18-22 非常勤講師	経営学特論
長岡 千香子	R4- 非常勤講師	ラーニングテクノロジー II
中畠 康二	H27-28 特任准教授	オリエンテーション科目A
中西 晶	H18- 非常勤講師	ナレッジ・マネジメント
中野 裕司	H18-R6 教授	遠隔教育実践論 ほか
仲林 清	H18-19 非常勤講師、H20- 客員教授	コンテンツ標準化論
根本 淳子	H18 助手、H19-26 助教、H27-30・R2- 非常勤講師	インストラクショナル・デザイン I ほか
畑田 敏雄	H18-21 非常勤講師	職業人教育訓練における eラーニング
平岡 齊士	H27-R4 准教授、R5- 客員准教授	インストラクショナル・デザイン I ほか
平松 琢弥	H18-21 教授	情報ビジネス経営論
藤田 豊	H18 助教授、H19 准教授	教育心理学
藤本 徹	H4- 非常勤講師	eラーニングのUI/UXデザインとゲーミフィケーション
マジュンダール・リトジット	R6- 准教授	eラーニング実践演習I ほか
松葉 龍一	H18 助手、H19-R3 准教授、R4-5 非常勤講師	基盤的情報処理論 ほか
右田 雅裕	H18 助手、H19- 助教	eラーニング実践演習 I ほか
宮崎 誠	R5 非常勤講師	ポートフォリオ演習 I
宮下 和子	R5 非常勤講師	eラーニング概論
宮原 俊之	H25-R5 非常勤講師	教育ビジネス経営論
武蔵 泰雄	H18 助教授、H19-26 准教授、H27- 教授	ネットワークセキュリティ論
森田 晃子	H25- 非常勤講師	医療教育における eラーニング

安浪 誠祐	H18 助教授、H19 准教授	外国語教育におけるeラーニング
吉田 文	H18-19 非常勤講師	高等教育におけるeラーニング
渡邊 あや	H20-25 准教授、H26-27 非常勤講師	高等教育マネジメント論 ほか



同窓生一覽

20年間で同窓生がこんなに増えました。

修士(学術)および 修士(教授システム学)

<p>宇野 令一郎 第 1 期生(2006 年度入学) 修論題目: ストーリーによる意欲向上を意図した社会人向けオンライン語学学習の設計と開発</p>
<p>加地 正典 第 1 期生(2006 年度入学) ボツワナ・フランシスタウン JICA海外協力隊ボランティア(コンピュータ技術) 修論題目: LMSの外部での学習行動を統合するWeb閲覧履歴ツールの開発 教授システム学専攻20周年、心よりお祝い申し上げます。一期生として、この学びが今の私の活動の礎となっていることを日々実感しています。ボツワナの地から、専攻の益々の発展と、後輩たちの活躍を応援しています!</p>
<p>志田 靖雄 第 1 期生(2006 年度入学) 修論題目: 大学通信教育課程におけるメディアを活用した授業の要件に関する研究</p>
<p>豊永 正人 第 1 期生(2006 年度入学) 修論題目: 学習オブジェクトモデル拡張の研究</p>
<p>中西 孝二 第 1 期生(2006 年度入学) 修論題目: 営業力強化に向けたワークプレイスラーニングのデザイン</p>
<p>花木 喜英 第 1 期生(2006 年度入学) 修論題目: 映像の教育効果に関するデータベースの構築と e ラーニングへの応用</p>
<p>福原 明浩 第 1 期生(2006 年度入学) 修論題目: e ラーニングが組織変革に与える影響と変革指標の考察</p>
<p>宮原 俊之 第 1 期生(2006 年度入学) 東京都 大学教員 修論題目: 高等教育機関におけるeラーニングを活用した教育活動の効果的な組織体制とマネージメントに関する研究 この度、GSISが20周年を迎えますこと、心よりお祝い申し上げます。私は修士課程および博士後期課程の1期生として入学いたしましたので、GSISの歴史そのものが私の歴史でもあります。GSISでの学びが現在の私のキャリアの礎となりました。先生方をはじめ、関わってくださった皆様に心より感謝申し上げますとともに、これからもGSISのさらなる発展を祈念しております。</p>
<p>村嶋 亮一 第 1 期生(2006 年度入学) 修論題目: 教授系列と指導方略の類型化に基づく市民参加型講座のためのコーステンプレートの設計および試作</p>
<p>石川 久吉 第 2 期生(2007 年度入学) 神奈川県 修論題目: 企業内研修におけるeラーニングコース設計・開発プロセスに対するID活用 20周年おめでとうございます。これからもますます発展していくことを願っています。学んだことを活かして研修開発の標準書やフォーマットを作成し、社内に展開していたころが、懐かしいです。現在66歳ですが、たまにはGSISのイベントなどに参加したいと思っています。どうぞ よろしくお祈りいたします。</p>
<p>齊藤 和郎 第 2 期生(2007 年度入学) 北海道 私立大学職員 修論題目: 教授法改善のためのナレッジマネジメントシステムの開発ー学士課程教育におけるジェネリックスキル育成に焦点を当ててー GSISで学んだID理論と実践。これをあらゆる場面で活用している自分に気づきます。わずか数行のメールでも、数十ページの提案書でも…。相手にこうなって欲しい。そのために有効な戦術は何か? その戦術は成功したのか? このようなマナーを修得できた学び舎と仲間へ感謝しています。IDの伝道を通じて社会に貢献せねば。そんな使命を感じています。OBのひとりとして。</p>
<p>鈴木 雄清 第 2 期生(2007 年度入学)</p>

<p>大分県 大分大学 修論題目: ARCS動機づけモデルに基づいた授業評価と改善方略提案システムの設計</p> <p>このたび専攻設立20周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。在学中は非常に問題のある学生で多くの方にご迷惑をおかけしましたが、ご指導くださった先生方や同窓生の皆様とのご縁、本専攻で修得したことは、私にとって大きな財産であり、本専攻での学びがかけがえのない経験であったと深く実感しております。専攻のますますの発展と、未来の学習者が本専攻で多くの貴重な学びを得られることを心より願っております。</p>
<p>曾山 夏菜 第2期生(2007年度入学) 鹿児島県 教員 修論題目: 大学受験予備校でのモバイルラーニングにおける英語学習支援</p> <p>20周年おめでとうございます。</p>
<p>多賀 万里子 第2期生(2007年度入学) 修論題目: 仮想学習環境における問題解決型学習を促進するための分析的ルーブリックを使った自己モニタリングと自己アセスメントの試み</p>
<p>高橋 暁子 第2期生(2007年度入学) 千葉県 大学教員 修論題目: 自己主導的な学習内容選択を支援するMoodleの課題分析図UIの開発</p> <p>20年ってすごいですよね。入学時には想像もできませんでした。これからもGSISが続きますように。私も同窓生として貢献できるよう頑張ります！</p>
<p>谷口 弥子 第2期生(2007年度入学) 修論題目: ボランティア組織運営におけるeラーニング活用に関する一考察</p>
<p>千葉 珠希(旧姓:福田) 第2期生(2007年度入学) 修論題目: eラーニングに求められるパーソナライゼーションに関する研究</p>
<p>中嶋 康二 第2期生(2007年度入学) 修論題目: インストラクショナル・デザインに基づいたeラーニング導入支援者のためのARCS+ATチェックリストの提案</p>
<p>仲道 雅輝 第2期生(2007年度入学) 愛媛県 愛媛大学 教育・学生支援機構 准教授 修論題目: 「科目ガイダンスVOD」を基軸とした全学的なe-learning推進に関わる研究-日本福祉大学を事例として-</p> <p>研究の力がまだまだ足りなかった私を、根気強くご指導くださった鈴木先生はじめ、諸先生方には心より感謝しております。熊本大学での学びをこれからも教育や研究に活かしていきたいと思っております。熊本大学教授システム学の益々のご発展をお祈りしております。</p>
<p>羽田 邦弘 第2期生(2007年度入学) 修論題目: 教科指導力を高めるための現職英語教員向け研修モデル</p>
<p>福島 誠也 第2期生(2007年度入学) 熊本県 県立高等学校指導教諭 修論題目: eラーニングXHTMLエディタeXeのSCORMテスト作成機能の拡張 GSISには高等教育のみならず、全ての教育における根源的課題解決へ向けた学びがあると思います。今後の更なる発展をお祈りしています。もちろん、私も地元熊本におりますので、何かあればいつでもお声掛け下さい。</p>
<p>宮下 伊吉 第2期生(2007年度入学) 修論題目: e-learningによる大学入学前の文章トレーニング教材の開発</p>

<p>宮原 詩織 第2期生(2007年度入学) 東京都 APJ Training Program Manager 修論題目: 知識構築に向けた非同期オンライン・ディスカッションの設計</p>
<p>望月 真紀 第2期生(2007年度入学) 修論題目: 大学におけるアウトソーシングを活用したeラーニング業務の支援体制についての研究</p>
<p>森 和哉 第2期生(2007年度入学) 修論題目: eラーニング教材におけるページ構造のあり方に関する研究</p>
<p>阿部 聡 第3期生(2008年度入学) 修論題目: TV 電話を利用した遠隔対面教育手法の実践ガイドラインの開発と評価</p>
<p>市橋 貢 第3期生(2008年度入学) 修論題目: 学習管理システムにおける学習者相互の「つながり感」を高める機能に関する研究</p>
<p>小野 達也 第3期生(2008年度入学) 修論題目: コンセプトマップを活用した非同期型 eラーニング学習の設計—構造的理解を深めるツールとしての効果的な導入—</p>
<p>笠井 詠子 第3期生(2008年度入学) 修論題目: シラバスに関する調査とIDの視点を搭載したシラバス作成支援システムの開発—図書館概論を例として—</p>
<p>片野 俊行 第3期生(2008年度入学) 修論題目: SCCに基づいたeラーニングによるプロジェクトマネジメントコースの設計・開発</p>
<p>北村 隆始 第3期生(2008年度入学) 修論題目: ストーリー中心型カリキュラムによる実務家育成教材の設計・開発</p>
<p>児玉 あゆみ 第3期生(2008年度入学) 修論題目: ストーリー中心型カリキュラム(SCC)におけるリフレクション手法</p>
<p>佐藤 淳志 第3期生(2008年度入学) 株式会社富士通ラーニングメディア(人材育成企業) 修論題目: トレーニング・ニーズアセスメントのためのID活用型インタビュー手法に関する研究—人材育成事業者における実践を通じて— GSISで学んだ知識・スキル・経験は、人材育成という仕事の枠を超え、人生に役立っております！ GSIS卒業生として恥ずかしくない生き方をしていきます！</p>
<p>都竹 茂樹 第3期生(2008年度入学) 修論題目: インストラクショナル・デザインを活用したメタボリックシンドロームの予防改善に資する遠隔型保健指導プログラムの開発</p>
<p>朴 恵一 第3期生(2008年度入学) 修論題目: ゴールベースシナリオ(GBS)理論に基づく情報活用力育成教育の実践</p>
<p>早川 勝夫 第3期生(2008年度入学) 修論題目: メタ認知向上を目指した新たな成人学習モデルの提案と検証</p>
<p>増山 純二 第3期生(2008年度入学) 修論題目: BLSの研修モデルの開発～運動技能の再生の検証～</p>
<p>松橋 秀親 第3期生(2008年度入学) 修論題目: 障害学生の教育設計における適切な支援サポート業務の研究</p>

<p>村木 純偉 第 3 期生(2008 年度入学) 修論題目:OPTIMAL モデルによる e ラーニング作成支援ツールの開発</p>
<p>森田 晃子 第 3 期生(2008 年度入学) 修論題目:自主的な学習を促す ID に基づく学習ポータル設計 -MR 教育者が学習する「場」を考える-</p>
<p>八木 秀文 第 3 期生(2008 年度入学) 修論題目:事前テストにおける学習者状態を考慮したフィードバックの与え方と学習効果向上</p>
<p>吉田 明恵 第 3 期生(2008 年度入学) 修論題目:インターネット型大学院におけるオンラインオリエンテーションの改善提案—学習者の立場から—</p>
<p>麻生 和彦 第 4 期生(2009 年度入学) 修論題目:現代数学の講義ビデオを e ラーニング教材として活用するためのシステム設計と実装の試み</p>
<p>石井 武士 第 4 期生(2009 年度入学) 修論題目:集合知を活用した協調学習による実践的プログラミング教育の開発</p>
<p>岩男 基(旧姓:辻野) 第 4 期生(2009 年度入学) 修論題目:業務関連教材を用いて自己調整学習を支援する企業内英語研修の再設計</p>
<p>植田 清一 第 4 期生(2009 年度入学) 修論題目:マイクロブログを利用したリフレクション支援システムの開発 —OJTにおいて若手ITエンジニアを育成する支援システムの検討—</p>
<p>大石 奨 第 4 期生(2009 年度入学) 愛知県 豊田市消防本部 修論題目:ICLS 講習会におけるインストラクターが持つ基本教授技術の明文化と共有促進</p> <p>GSIS20周年心よりお慶び申し上げます。コロナ禍など様々な社会の変化はありましたが、IDを学ばせていただき多方面で役立てられました。これからも一心不乱に前進あるのみで、課題に取り組んでまいります。さて、30周年に向けてキックオフです。</p>
<p>岡田 裕子 第 4 期生(2009 年度入学) 修論題目:STAR遺産モデルに基づいた情報教育教材の設計・開発</p>
<p>甲斐 晶子 第 4 期生(2009 年度入学) 東京都 大学教員 修論題目:自己調整学習能力形成を促すeラーニングコンテンツ推薦手法の提案～日本語学習者を例として～</p> <p>20周年おめでとうございます！ついこの前10周年のメッセージを書いたように思いますが、時が経つのは早いものですね。素晴らしい先生方や仲間たちに囲まれて育ったわりに相変わらずアブアブしていますが、「さすが熊大GSIS！」と言われるよう精進してまいります。GSISの益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。</p>
<p>菊田 美里(旧姓:柳) 第 4 期生(2009 年度入学) 修論題目:企業内教育における対面型研修の形成的評価の質を高める研修観察支援ツールに関する研究</p>
<p>堤 宇一 第 4 期生(2009 年度入学) 修論題目:ILT(Instructor.Led Training)手法による職業人教育訓練における教育効果測定レベル1評価のための測定ツールの開発研究</p>
<p>西本 彰文 第 4 期生(2009 年度入学) 熊本県 大学職員 修論題目:eラーニング質保証レイヤーモデルに対応した優先度指標による授業改善方略提示ツールの開発・評価</p>

橋本 賢一 第 4 期生(2009 年度入学) 修論題目: GBS理論を用いた失敗事例から学べるシナリオ型教材制作の試み
平田 良作 第 4 期生(2009 年度入学) 修論題目: 大学の情報教育における学習意欲デザインの実践 ~ARCSモデルをベースとして~
丸田 拓 第 4 期生(2009 年度入学) 修論題目: 教育分野における日本の著作権法の規定 ~韓国、中国、ベトナムの著作権法との比較~
宮内 明美 第 4 期生(2009 年度入学) 修論題目: インストラクショナルデザインに基づいた企業内 IT 研修教材の設計と開発
米山 あかね 第 4 期生(2009 年度入学) 修論題目: インストラクショナルデザイナー養成プログラム(初級)の設計 -コンピテンシー確立を目指して
青木 太郎 第 5 期生(2010 年度入学) 修論題目: 患者急変対応力養成プログラムを受講する初学者に足場作りをするための e ラーニング教材の開発 —看護師の ACLS コース受講を背景に—
石井 嘉明 第 5 期生(2010 年度入学) 修論題目: e ラーニングにおける柔軟な協調学習環境の開発
石田 百合子 第 5 期生(2010 年度入学) 埼玉県 大学教員 修論題目: キャリア・コンサルタント向けキャリア・コンサルティング補助ツールの開発 GSIS20周年、おめでとうございます！企業の成長ステージに例えると、そろそろ安定・拡大期を越え、再成長期に向けた準備が始まっているのかなと感じています。20周年が再成長期への一歩を踏み出すきっかけになればと願っています。微力ながら、何かお手伝いできればと思っています。
岩澤 亮祐 第 5 期生(2010 年度入学) 修論題目: 活用事例に基づく大学向けコース管理システム利用支援ツールの開発
上田 勇仁 第 5 期生(2010 年度入学) 東京都 大学教員 修論題目: 高等教育機関におけるProject Based Learning設計支援ツールの開発 20周年おめでとうございます！
浦底 雅彦 第 5 期生(2010 年度入学) 修論題目: DEAL モデルを活用したOJTにおける週次リフレクション・ジャーナルの開発
鐘ヶ江 力 第 5 期生(2010 年度入学) 修論題目: 高等教育機関における e ラーニング活用向け支援サービス構築ツール開発
紙谷 あゆ美 第 5 期生(2010 年度入学) 修論題目: 専門家のスキル向上とOJT支援を目指した教材デザインに関する研究—内視鏡センターにおける内視鏡洗浄を題材として—
坂本 貴美子 第 5 期生(2010 年度入学) 修論題目: ベテラン社員の知識や経験則を日々の業務と連動してデータベースに蓄積し共有する仕組みの検証
佐藤 祥史 第 5 期生(2010 年度入学) 修論題目: 同期型遠隔教育の設計ガイドラインの開発と評価~WebEx を利用した取り組みを例にして~

<p>竹岡 篤永 第 5 期生(2010 年度入学) 修論題目:ストーリー型学習の文脈と個人の文脈との関連づけを促すアドオンの提案～熊大SCC(Story-Centered Curriculum)を題材として～</p> <p>GSISで、楽しくて飽きない教育と研究に出会いました。新しい人、新しい仕事にも出会えました。今もそれを続けられていることをとても嬉しく思っています。</p>
<p>千葉 佑介 第 5 期生(2010 年度入学) 東京都 富士通株式会社 yusukechiba@kumadai.jp 修論題目:講師力の定義・構造化と有用性の検証～研修事業会社の講師力向上への取組みを例として～</p>
<p>野田 啓子 第 5 期生(2010 年度入学) 東京都 国際公務員(国連専門機関職員) 修論題目:大学事務職員を対象とした学習支援職務ミニマム・スタンダードおよびeラーニングプログラムの開発</p> <p>GSIS20周年おめでとうございます。ここ出会った先生方や仲間は一生の宝物です。M1夏合宿で連行された地獄温泉、M2冬合宿のものすごく微温くて寒かった温泉は今でも忘れられません。合宿や学会に連れてきた息子も21歳になりました。GSISと人生の多くを一緒に過ごしてきたことが感慨深いです。大人になってからも遠隔で学び続けられる機会を下さってありがとうございました。これからも30周年、50周年と続いていくように応援しております。</p>
<p>石井 恵利佳 第 6 期生(2011 年度入学) 修論題目:GBS 理論を活用したクレーム対応能力向上のための看護師育成 e- learning 教材の開発</p>
<p>内田 峰登 第 6 期生(2011 年度入学) 修論題目:活動報告を活用した社内研修の効果測定と改善手法の検討</p>
<p>岡崎 大輔 第 6 期生(2011 年度入学) 修論題目:GBS 理論を用いた手術室看護師が独学できる災害対策教材の開発</p>
<p>嶋田 謙一 第 6 期生(2011 年度入学) 修論題目:ゴールベースシナリオ(GBS)理論の適応度チェックリストを活用したシナリオ型教材作成支援手法の提案</p>
<p>清水 将統 第 6 期生(2011 年度入学) 修論題目:看護実践の自律したリフレクションを支援する e ポートフォリオ・プロトタイプの開発</p>
<p>辻 達諭 第 6 期生(2011 年度入学) 宮崎県 会社経営 修論題目:研修の転移をもたらす上司の取組みを促進するツールとワークショップの開発研究</p> <p>苦労は多かったですが、「学び」の実戦から得られる体験学習がその後の人生(生活)のいろんな側面に役立っているのも事実です。鈴木先生と飲みながらの対話は楽しかった(今も楽しい)</p>
<p>芳賀 了 第 6 期生(2011 年度入学) 修論題目:急変時におけるコミュニケーション能力向上を目指したシミュレーション教育～インストラクショナルデザインの原則による改善サイクルと課題～</p>
<p>宮原 秀明 第 6 期生(2011 年度入学) 修論題目:大学事務職員の相互研修活動へと導く研修ガイダンスシステムの提案</p>
<p>村上 幸生 第 6 期生(2011 年度入学) 修論題目:Basic LTI に準拠した学習支援ツールの開発とその評価</p>
<p>山田 紀昭 第 6 期生(2011 年度入学)</p>

<p>神奈川県 医療クオリティマネジャー、インストラクショナルデザイナー、臨床工学技士 修論題目: 研修と実践のタイムラグを考慮したジョブエイド組み込み型研修～医療機器スキルアップコース「人工呼吸器コース」の設計・開発～</p> <p>GSISで得た知識と人脈は、私のキャリアの礎となりました。創立20周年を心よりお祝い申し上げます。また、GSISの20年間の歩みは、人材開発における知の架け橋としての役割を着実に果たしてきたのではないかと思います。次の20年もさらなる飛躍を期待しています。</p>
<p>米山 基 第 6 期生(2011 年度入学) 修論題目: Web ブラウザを介した学習履歴や成果物の統合とその e ポートフォリオとの連携について</p>
<p>渡邊 浩之 第 6 期生(2011 年度入学) 修論題目: 学生チューターの質の保証をおこなうためのガイドラインの作成と評価</p>
<p>天野 慧 第 7 期生(2012 年度入学) 修論題目: 学習支援を目指したオンライン上の教育資源の前提知識の分析法に関する研究: 外国語学習教材における分析事例</p>
<p>荒井 直美 第 7 期生(2012 年度入学) 修論題目: 看護師対象の院内研修における改善支援ツールの開発</p>
<p>岩永 康之 第 7 期生(2012 年度入学) 修論題目: ICLS インストラクター増加を目的としたブレンド型 e ラーニングコースの開発-ガニエの9教授事象に基づくロールプレイ演習-</p>
<p>小山田 陽 第 7 期生(2012 年度入学) 修論題目: 協調学習によりチーム構築を支援するベトナム現地法人企業向け e ラーニング研修教材の開発</p>
<p>佐藤 久恵 第 7 期生(2012 年度入学) 東京都 地方公務員 修論題目: 地方自治体における人材育成目標と一線化した研修企画書フォーマットのデザイン</p> <p>20周年、おめでとうございます！GSISで楽しく激しく学んだ経験のおかげで、「たいていのことはなんとかできる」と思えるようになりました。また、GSISでの経験がつかないでくれるご縁のありがたみも日々感じています。</p>
<p>杉木 大輔 第 7 期生(2012 年度入学) 修論題目: 救命救急センターにおける診療の標準化を推進する合意形成システムの開発</p>
<p>鈴木 伸子 第 7 期生(2012 年度入学) 修論題目: インストラクショナルデザインの視点から再定義する研修事業会社における講師力</p>
<p>丹羽 優 第 7 期生(2012 年度入学) 修論題目: リフレクションの促進を意図した<いいねマーカー>の設計とMaharaへの実装</p>
<p>林 裕子 第 7 期生(2012 年度入学) 修論題目: 高等教育機関における教育支援システムの運用担当者向け支援ツールの開発</p>
<p>平岡 齊士 第 7 期生(2012 年度入学) 兵庫県 放送大学教員 修論題目: e ポートフォリオ導入のためのラーニングアクティビティ指標の開発ー自立した学習者を育てることを目標としてー</p> <p>7期でGSISに入学、9期と同じタイミングでGSISに就職、18期の入試合格を見届けて退職しました。文字通り、公私ともにGSISと関わってきたので、今は外部から見ているのが不思議な気分ではありますが、これが「遠くから見守ってます」というやつなんだろうなと思ってます。</p>

<p>平島 光博 第 7 期生(2012 年度入学) 修論題目:仲間から学ぶための薬剤師の実践コミュニティデザインー薬剤師のインフォーマル学習の活性化を考えるー</p>
<p>廣庭 晴香 第 7 期生(2012 年度入学) 修論題目:医療機関の事務・サービス部門職員の能力開発を目指した学習支援システムの設計と評価</p>
<p>前田 和哉 第 7 期生(2012 年度入学) 修論題目:ゴールベースシナリオ理論に基づくプロジェクトマネジメント資格用コンテンツの設計と開発</p>
<p>三井 一希 第 7 期生(2012 年度入学) 山梨県 山梨大学・准教授 修論題目:小学校教員を対象としたICT活用を促進する効率的な情報共有システムの設計と開発</p> <p>今の私を作っているのはGSISで学んだこと、GSISで出会った仲間・先生方です。20周年おめでとうございます！</p>
<p>森田 淳子 第 7 期生(2012 年度入学) 福岡県 大学教員 修論題目:自己調整学習理論に基づく日本語eラーニング教材の設計と試行ー北方四島日本語講師派遣事業を例としてー</p> <p>教授システム学専攻20周年、誠におめでとうございます。GSISで楽しく激しく学ばせていただいたことは、私の教員・研究者としての礎になっています。先生方のご指導とGSISでつながった多くの方々のご縁に感謝申し上げます。先生方、修了生ならびに在学生の皆様のご健康とご多幸、専攻のさらなるご発展をお祈りいたします。</p>
<p>伊藤 香菜子 第 8 期生(2013 年度入学) 修論題目:継続的なダブル・ループ学習を促進する学習支援プロセスの設計及びツールの開発</p>
<p>天野 由貴 第 8 期生(2013 年度入学) 大学教員 修論題目:学習意欲継続のためのeラーニング教材チェックリストの開発</p> <p>20周年おめでとうございます。次の10年、そしてその先の未来に向けて、教育システム学の新たな地平を切り開いていかれることを期待しております。</p>
<p>大西 孝明 第 8 期生(2013 年度入学) 修論題目:ID 理論を活用した教えない学習による製薬企業インストラクターの質向上に関する研究</p>
<p>笠野 由衣 第 8 期生(2013 年度入学) 修論題目:内省を促す自己評価表および共有システムの提案ー国際交流事業におけるコーディネーターの振り返りー</p>
<p>佐久間 あゆみ 第 8 期生(2013 年度入学) 東京都 看護師 修論題目:中堅看護師における問題解決力修得の現状と強化研修方法の開発</p> <p>20周年おめでとうございます！このような貴重な機会を共に祝えること、大変嬉しく思います。これもひとえにGSISを引っ張り、支えてきた素晴らしい先生方のお力なのだ実感しています。これからも私たちを刺激し、ドキドキ！ワクワク！させてくれるGSISであり続けて欲しいです。</p>
<p>鈴木 克明 第 8 期生(2013 年度入学) 修論題目:オンライン学習者のライブイベントと自己効力感が学習に与える影響ーシミュレーション機能を有する学習コンテンツの作成ー</p>
<p>苑田 裕樹 第 8 期生(2013 年度入学) 修論題目:外傷初期看護の学習課題分析に基づいたeラーニング教材の開発</p>

<p>辰巳 早苗 第 8 期生(2013 年度入学) 大阪府 大学職員 修論題目: 教学マネジメントを担う大学職員の業務支援に関する研究</p>
<p>直嶋 大助 第 8 期生(2013 年度入学) 修論題目: 一次救命処置学習経験者における 学習到達度に応じたフォローアップ研修の設計と開発 - 歯科衛生士を対象とした実践を通して -</p>
<p>八尋 芙美子 第 8 期生(2013 年度入学) 修論題目: ディベートを中心とした演習型授業における図書館と学部教員による授業実践の試み</p>
<p>横田 喜和 第 8 期生(2013 年度入学) 修論題目: ARCS 動機づけモデルを活用した特定健康診査実施案内通知の評価と改善提案 ~ 市町村国民健康保険における特定健康診査を題材として ~</p>
<p>渡辺 泰一 第 8 期生(2013 年度入学) 修論題目: 販売士資格における更新制度等の再設計の検討</p>
<p>浅田 義和 第 9 期生(2014 年度入学) 修論題目: 新人看護師を対象とした多重課題シミュレーションに関する事前学習eラーニング教材の開発計画</p>
<p>荒木 恵 第 9 期生(2014 年度入学) 修論題目: MR の医薬情報提供スキルにおける医師視点の評価指標の提案</p>
<p>江藤 公宣 第 9 期生(2014 年度入学) 修論題目: リフレクション促進により携帯電話販売員の商品提案スキル習得を支援するモバイルラーニングの開発</p>
<p>奥 典宏 第 9 期生(2014 年度入学) 修論題目: 多施設の保健師向け食物アレルギーeラーニング教材の設計・開発 ~ 集合・対面型研修の代替を目的とした独学eラーニング教材の設計・開発 ~</p>
<p>菊内 由貴 第 9 期生(2014 年度入学) 修論題目: 事例演習中心の独習型がん看護研修の設計 - 臨床応用を目的とした学習目標と評価基準の見直しによる効率化 -</p>
<p>下坂 充 第 9 期生(2014 年度入学) 長野県 理学療法士 修論題目: 理学療法学生の臨床実習支援目的の仮想ホームルーム設計と形成的評価 インストラクショナルデザインを履修可能な本邦においては極めて貴重で本格的な専攻課程であり、今後の更なる教育基盤と研究基盤の発展を祈念致しております。</p>
<p>高嶋 知佳 (旧姓: 倉本) 第 9 期生(2014 年度入学) 修論題目: ARCS モデルに基づく歯科矯正治療の患者教育用オンラインコンテンツの開発</p>
<p>中前 雅美 第 9 期生(2014 年度入学) 修論題目: 病院実習前の学内実習の設計 eラーニングとのブレンド型シミュレーション演習</p>
<p>星野 健 第 9 期生(2014 年度入学) 修論題目: 病棟看護師の電子カルテ操作に関する効率的な操作方法への気づきと実践を促す教材の開発</p>
<p>蘆原 友里 第 10 期生(2015 年度入学) 修論題目: 課題分析図を基盤とした診療放射線技師向け「心停止回避コース」学習支援教材の開発</p>
<p>石田 倫章 第 10 期生(2015 年度入学)</p>

修論題目:技術者向け集合研修を自学型eラーニングに変換するための事例付チェックリストの開発
大黒 章子 第 10 期生(2015 年度入学) 修論題目:リフレクションの構造化による2年次キャリア形成科目の授業改善—職業キャリア・レディネス尺度などに基づく—
大庭 小百合 第 10 期生(2015 年度入学) 修論題目:理系研究者を対象としたワーク・ライフ・バランス意識啓発研修プログラムの開発
川村 和美 第 10 期生(2015 年度入学) 修論題目:緩和薬物療法認定薬剤師のコンピテンシー開発
北川 周子 第 10 期生(2015 年度入学) 東京都 株式会社エデュプレイ代表取締役 修論題目:シナリオ型オンライン教材作成のためのMoodleレッスン用プラグインとテンプレートの開発 20周年おめでとうございます。GSISで「学び続ける」ことを学べました。同窓生と飲める機会も多く、いつもたくさんの学びを非公式で学ぶGSISの醍醐味も堪能させて頂いています。10年後のみなさんのご活躍楽しみにしています。
栗原 光江 第 10 期生(2015 年度入学) 修論題目:自治体職員の文章に関する基準モデルを用いた推敲セルフトレーニング方略の設計
三宮 有里 第 10 期生(2015 年度入学) 修論題目:既習の知識・スキルの活用を促す看護臨地実習準備教材の設計と提案
豊場 沢子 第 10 期生(2015 年度入学) 修論題目:看護基礎教育課程における看護技術(運動技能)の習得度の向上を目指した教授方略の開発
西村 恭子 第 10 期生(2015 年度入学) 修論題目:後進指導の態度・スキルの習得を目的とする習熟度別研修の設計-介護施設の接遇マナーの熟達者・初学者向け研修-
藤本 祥之 第 10 期生(2015 年度入学) 修論題目:IDの観点から授業設計の効果・効率を高める シラパス作成支援ツールの開発
政岡 祐輝 第 10 期生(2015 年度入学) 大阪府 修論題目:活用場面の類推による学習転移の促進を目指した内省支援ツールの再設計 —看護師を対象として— 20周年、おめでとうございます！GSISでかけがえのない経験と学びを得ることができました。これからも、多くの人の未来を広げていくことを願っています。今後のさらなる発展を楽しみにしています！
山下 藍 第 10 期生(2015 年度入学) 熊本県 大学教員 修論題目:音読評価基準の設定と授業外フィードバックを導入した韓国語音読教育の設計と実践 在学当時は想像もしていませんでしたが、現在、熊本大学でお世話になった先生方と共に働いております。おかげさまで、慌ただしくも実りのある楽しい日々を過ごしています。
金武 雅美 第 11 期生(2016 年度入学) 修論題目:GBS理論を応用した日本語支援員養成プログラムの eラーニングの教材 -外国人児童生徒等の支援を目的として-
鈴木 真保 第 11 期生(2016 年度入学) 修論題目:オンライン教育におけるドロップアウト防止のためのチュータリング方略の研究 ~方略平準化のための手引書作成~

<p>関山 裕一 第 11 期生(2016 年度入学) 修論題目: ジョブエイドを基幹としたOJT 教育プログラムの開発 ~救急外来における急性期脳梗塞治療に焦点をあてて~</p>
<p>高橋 操 第 11 期生(2016 年度入学) 修論題目: Co-presence と Pomodoro Technique を活用し独習を支援する「サイバー自習室」の開発と評価</p>
<p>土屋 理恵 第 11 期生(2016 年度入学) 大阪府 修論題目: 継続的な授業改善のための研修設計と実践の共有支援 -日本語教育機関における教師コミュニティの構築-</p> <p>GSIS20周年、おめでとうございます！私は10周年記念イベントに出席してGSIS受験を決めました。今も広がるGSISつながりの出会いや知識、そのきっかけを築いてくださった先生方に心から感謝しています。この先も30周年、40周年と続いていくこと、そして指導を伴う様々な場面がIDの活用によりどんどん改善されていくことを願っています。</p>
<p>中山かつよ 第 11 期生(2016 年度入学) 修論題目: 勤労者看護実践に必要な臨床判断を学ぶ、`eラーニング`教材の開発 -メリルの ID 第一原理を活用した教材設計-</p>
<p>西尾 宗高 第 11 期生(2016 年度入学) 修論題目: 心肺蘇生講習会(ICLS)コースの行動目標の分析結果を基にしたコース設計 ~参加型学習から習得学習への転換~</p>
<p>西村 由弥子 第 11 期生(2016 年度入学) 薬剤師/システム開発 修論題目: 学習者の現状と求められる知識・スキルとの差の認識を深めるケーススタディ教材の開発 20周年記念事業実行委員長はじめ実行委員の皆様のご尽力に感謝申し上げます。</p>
<p>峰内 暁世 第 11 期生(2016 年度入学) 修論題目: 初めて仏教学を学ぶ、`学習者向け学習支援環境の開発 -テキスト`素材と`ホ`ットを活用して-</p>
<p>堀坂 佳宏 第 11 期生(2016 年度入学) 修論題目: 態度変容を目指した大学生のリスク情報報告を促すモバイルアプリの開発</p>
<p>山本 文枝 第 11 期生(2016 年度入学) 修論題目: eラーニング教材開発マネジメントのための業務支援ツール開発と教材設計 -「教材開発マネージャー」の役割の明確化と熟達化支援 -</p>
<p>天野 裕香 第 12 期生(2017 年度入学) 修論題目: 経験学習に基づいた中堅看護師 ACP ファシリテーター育成研修の開発</p>
<p>安藤 文人 第 12 期生(2017 年度入学) 修論題目: 知的技能・運動技能が`連携した歯科臨床基礎実習のフレンドリー`ネット`ラーニング`の教育設計 分析と改善</p>
<p>内山 徹 第 12 期生(2017 年度入学) 修論題目: 取捨選択可能な動画教材を利用した課題設定と相互評価によるeラーニングの改善 -ワークショップデザインの視座において -</p>
<p>加嶋 多恵 第 12 期生(2017 年度入学) 埼玉県 看護教員 修論題目: GBS教材を用いた患者対応スキル向上のための授業設計 -看護学生のための患者安全教育- GSIS20周年、心よりお祝い申し上げます。「はたち」という大切な節目をお祝いできたこと、とてもうれしく思います。これ</p>

<p>までの歴史と実績に敬意を表し、今後、ますますのご発展をお祈りいたします。</p>
<p>加藤 幸路 第 12 期生(2017 年度入学) 修論題目:MOOC を設計する教員のための チェックリストとマニュアルの開発と評価</p>
<p>川島 孝太 第 12 期生(2017 年度入学) 大阪府 看護師 修論題目:看護管理者のフィードバックを支援するジョブエイドと行動特性に応じた思考と対応を習得するeラーニング教材の開発～多様な部下の問題行動の修正に焦点をあてて～</p> <p>20周年おめでとうございます。M2では学びから新たなものを自分で作り出すことが求められ、何度も挫折しそうになりました。家族や職場同僚からの激励、共に学ぶ仲間との共感、担当教員からの適切な指導によって何とか諦めずに山を乗り越えることができたことは、今でも自分の自信に繋がっており財産です。貴重な学びをありがとうございました！</p>
<p>川端 潤 第 12 期生(2017 年度入学) 福岡県 看護師 修論題目:病院前小児救急におけるコ `ールへ `ースシナリオ理論に基づ `いたeラーニング `教材の開発</p> <p>GSISの20周年を心よりお祝い申し上げます。20年という節目を迎え、GSISコミュニティの一員であることを誇りに思います。これからも新たな挑戦を続け、輝かしい未来に向け共創できればと思います。</p>
<p>澤山 芳枝 第 12 期生(2017 年度入学) 神奈川県 大学技術職員 修論題目:アルツハイマー型認知症に特化した認知症模擬患者の演技トレーニング `養成フ `ロク `ラムの提案~シナリオとチェックリストの作成~</p> <p>GSIS20周年おめでとうございます！これからのGSISがますます素晴らしい研究や社会貢献をして発展していくことをお祈り申し上げます。修了生として協力していきたいと思っています。</p>
<p>高瀬 良重 第 12 期生(2017 年度入学) 修論題目:小学校教員のための学校図書館活用支援ツールの開発と評価 ―授業における学校図書館活用のための知的技能の習得を目指して―</p>
<p>富永 志津江 第 12 期生(2017 年度入学) 修論題目:職業訓練受講生のキャリアシート作成を支援するシ `ョフ `エイト `の開発 ―コンセフ `トマップ `表現による職業情報提示の試み―</p>
<p>吉村 依里 第 12 期生(2017 年度入学) 大分県 日本語教員 修論題目:日本語母語話者のための「やさしい日本語」eラーニング教材の開発と評価―市役所職員による着実な知的技能の習得と態度形成を目指して―</p> <p>多くの出会いと学びに恵まれた日々でした。支えてくださったGSISのみなさん、職場の先生方、友人、家族に心より感謝します。</p>
<p>浅井 佑也 第 13 期生(2018 年度入学) 修論題目:大学教職課程事務初任者のための学習支援プログラムの開発―ジョブエイドと e ラーニングによる支援―</p>
<p>生田 正美 第 13 期生(2018 年度入学) 神奈川 看護師 修論題目:急臨床現場で役立つ新聞デジタルアーカイブの開発 ~二次救急看護師のための研修以外での人材育成~</p>
<p>石津 真保 第 13 期生(2018 年度入学) 修論題目:部下の研修転移を促す上司向け行動支援ツールの開発 - パフォーマンス向上のためのチェックリスト</p>

とデザインシート -
<p>伊藤 洋一 第 13 期生(2018 年度入学) 東京都 データマネジメントコンサルタント 修論題目:合意形成過程を伴う研修の精緻化理論に基づく再設計 - データモデリング入門コースを題材にして -</p> <p>20周年おめでとうございます。</p>
<p>岡室 恵子(旧姓:増永)第 13 期生(2018 年度入学) 静岡県 看護師 修論題目:ID第一原理を活用したリーダー看護師育成の事前教育教材の開発 -マネジメント業務に焦点をあてて -</p> <p>20周年おめでとうございます。GSISに出会い、新たな知見と武器を身につけると共に沢山の素晴らしい出会いがありました。心から感謝しています。GSISの益々のご発展と先生方のご健勝をお祈りしております。</p>
<p>川村 美好 第 13 期生(2018 年度入学) 埼玉県 会社員(ゼネコン) 修論題目:設計協力スタッフを対象とした業務遂行能力にばらつきのある場合の TOTE モデルによる学習支援ツールの開発</p> <p>GSIS20周年おめでとうございます。その記念誌に修了生として名前を連ねることができ、大変うれしく思います。30周年、50周年・・・と今後の発展が楽しみです。</p>
<p>工藤 由美子 第 13 期生(2018 年度入学) 京都府 京都市立 中学校 非常勤講師 修論題目:小学校教員とALTとの授業打合せのための研修設計 -外国語不安の軽減を中心に-</p> <p>20周年おめでとうございます。貴学での学びと経験は、私の成長の大きな支えとなりました。素晴らしい環境で学べたことに感謝し、今後のさらなる発展をお祈りいたします。これからも多くの優れた人材が育つことを願っています。</p>
<p>小池 啓子 第 13 期生(2018 年度入学) 埼玉県 埼玉医科大学 医学教育センター 助教/看護師 修論題目:中堅看護師の行動変容を促す院内教育担当者向け研修支援パッケージの開発 - キャリアラダーとアクションプラン活用型研修の提案 -</p> <p>20周年、心よりお祝い申し上げます。教授システム学専攻に関わる先生方、スタッフのみなさん、同窓生が築いてきた歴史的一幕にいられることを幸せに思います。時代先取り、かつ、柔軟な本専攻の今後の発展を祈念しております！</p>
<p>清水 久輝 第 13 期生(2018 年度入学) 東京都 製薬会社の研修部にて勤務 修論題目:ループ `リック評価における評価者と被評価者間のハ `ラツキを抑制するためのチェックリスト開発と研修設計</p> <p>もうすでに19期の方がいるということで、時の流れを実感しました。 卒業後も、人材育成に関わる業務を実施させて頂いております。 何人かの卒業生の皆さんとは仕事上でのお付き合いもあり何年経ってもGSISの話題は出てきます。 GSISで学んだことが改めて自身の業務だけでなく、次のキャリアに活かされたと実感しています。 つい仕事が忙しくなると学びへのアンテナの感度が鈍ってしまうこともありますが、今後もGSISで学んだ時を思い出し、自己研鑽に励んでいきたいと思っております。</p>

<p>立和名 房子 第 13 期生 (2018 年度入学) 大阪府 日本語教師 修論題目: 初任日本語教師のための教案作成支援ツールの開発 - 学習目標・評価・練習の整合性の取れた授業設計を目指して -</p> <p>GSIS20周年おめでとうございます。 もしも、GSISに入っていないならば、、、と考えると、恐ろしささえ感じる。—おそらく、こちらにコメントを寄せている多くの方もそうかもしれませんが— GSIS入部以来、ずっとそんなふうに思っています。今の私が私であるのは、GSISと、そこに集う先生方や仲間たちとの出会いのおかげです。このような貴重で有意義な「場」をつくってくださった先生方や先輩、ともに学んだ仲間たちに改めまして、心から感謝申し上げます。今後もより多くの人たちがGSISに出会い、それぞれの立場で日本の教育改善に寄与する人材が増えること、そして、GSISのますますのご発展をお祈り申し上げます。</p>
<p>藤崎 隆志 第 13 期生 (2018 年度入学) 修論題目: INARS コースの学習課題分析と TOTE モデルに基づいた知的技能の習得に向けた e ラーニング支援教材設計・開発</p>
<p>宮道 亮輔 第 13 期生 (2018 年度入学) 栃木県 医師 修論題目: コンピテンシーに基づいた経験学習の実践支援 - ICLS 指導者養成ワークショップの設計・開発 -</p> <p>おめでとうございます。</p>
<p>阿部 朋子 第 14 期生 (2019 年度入学) 修論題目: 5W1Hの視点をを用いて質問を生成するための授業パッケージの開発—グループワーク時の発言量増加を目指して—</p>
<p>鶴澤 威夫 第 14 期生 (2019 年度入学) 修論題目: バングラデシュの初級日本語学習者と日本の高校生とのCOIL 型教育プログラムの開発</p>
<p>奥野 将太 第 14 期生 (2019 年度入学) 修論題目: 課題分析図に基づき紙媒体とデジタル媒体を融合した改訂版ジョブエイドの設計と開発～在宅酸素療法導入時の理学療法士の役割に着目して～</p>
<p>楠本 朗 第 14 期生 (2019 年度入学) 修論題目: 産業保健体制確立のためのジョブエイドの開発 —メンタルヘルス対応における連携を中心に—</p>
<p>佐藤 尋美 第 14 期生 (2019 年度入学) 修論題目: 看護教育場面におけるGBS 理論に基づいたシナリオ型教材作成支援のためのワークシートの開発</p>
<p>菅 広信 第 14 期生 (2019 年度入学) 修論題目: ジョブエイドを組み込んだ人工呼吸器のアラーム設定学習プログラムの開発</p>
<p>高橋 一樹 第 14 期生 (2019 年度入学) 修論題目: 「学びの第一原理」を参考にした理学療法士の臨床推論能力を育成する OJT プログラムの開発</p>
<p>月足 由香 第 14 期生 (2019 年度入学) 修論題目: 企業内教育における実務スキル育成を支援する学習プログラムの開発—対話テキストを用いた構造化ワークによる商談スキルの習得—</p> <p>GSIS20周年、誠におめでとうございます！ インストラクショナルデザインとの出会い、そしてGSISでの経験は、人生の学びを大きく変えるとても貴重なものとなりました。多くの方の学びがより輝かしいものとなりますよう、今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。</p>

<p>松井 久実 第 14 期生(2019 年度入学) 東京都 麻布大学大学教育推進機構 教育方法開発センター センター長 修論題目: 獣医学教育を支援するチャットボットの開発と運用～生理学実習科目を題材として～</p> <p>20周年おめでとうございます。GSISで学べたことは私の財産になっております。GSISの今後の更なる発展を祈念いたしております。</p>
<p>三浦 玲 第 14 期生(2019 年度入学) 修論題目: 学生の主体的キャリア選択支援プログラム作成の試み - キャリア選択自己効力感を指標として</p>
<p>宮下 和子 第 14 期生(2019 年度入学) 修論題目: 日常業務についてのリフレクティブ・サイクルを用いた省察支援ツールの開発 - 産学連携専門人材のコミュニティを対象として-</p>
<p>ワード 大竹 弥生 第 14 期生(2019 年度入学) 東京都中央区 看護師 修論題目: 院内人工呼吸器ワークショップ後の学習の転移を促進する自己内省型評価ツールの開発</p> <p>※コメントは第 5 代(現)同窓会長の祝辞へ掲載しています。</p>
<p>和田 由里恵 第 14 期生(2019 年度入学) 修論題目: 理系ラボにおけるメンターの課題発展に資する学生間メンタリング用リフレクションツールの開発</p>
<p>植草 恵 第 15 期生(2020 年度入学) 修論題目: 臨床推論・臨床判断の思考過程の習得を目指した学習支援～救急外来に配置転換を希望する看護師のレジネス形成を目指して～</p>
<p>大槻 英之 第 15 期生(2020 年度入学) 東京都 人事・教育担当 修論題目: 公的認証の取得業務に必要な法令遵守の態度を習得する学習手法の提案～法令を守ろうとする技能と自己効力感を習得する教材作成～</p> <p>「GSIS創立20周年、誠におめでとうございます。」GSISでの貴重な経験や学びは、現在の業務において大いに活かされており、社内でもたびたび相談を受ける機会があるなど、その価値を改めて実感しております。今後さらに発展し、より多くの優れた人材が輩出されることを心より願っております。</p>
<p>荻野 禎之 第 15 期生(2020 年度入学) 東京都 大学職員 修論題目: 実験教育TAが経験学習を通じて学生との関わり方を習得する学習環境の構築</p> <p>教授システム学専攻創立20周年、誠におめでとうございます。わが国でも先駆的な、すべてオンラインで学位取得可能な専攻として生まれ、さまざまな場所でご活躍されているID専門家・研究者を多く輩出されてきたかと思っております。私の入学した2020年度はコロナ禍の真っ只中でしたが、そのような状況であるからか、同期の皆さんや先生方とは様々な形でコミュニケーションをとらせていただき、大変心強かったことを思い出します。これから30周年、40周年に向け益々のご発展を祈念しております。</p>
<p>加藤 圭太 第 15 期生(2020 年度入学) 修論題目: 通信制高校の数学における個別化教授システム(PSI)を用いた単位修得のための包括的支援設計による面接指導の改善</p>
<p>栗山 俊之 第 15 期生(2020 年度入学) 大分県 大学職員 修論題目: GBS 理論に基づくエラー誘発型ロールプレイ教材の開発 - 失敗から学ぶ対外折衝スキル-</p> <p>GSIS20周年誠におめでとうございます。節目の年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。これからも先駆的な研究・人材育成の拠点として更なるご発展をお祈りいたします。</p>

<p>三枝 澄絵 第 15 期生(2020 年度入学) 東京都 製造DXコンサルティング 修論題目: PLE30を評価指標および行動指標とした肯定的学習環境構築のプロセス設計と実践—活動支援主体の段階的委譲—</p> <p>GSIS20周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。今後の益々の発展をお祈りいたします。</p>
<p>坂本 昌宏 第 15 期生(2020 年度入学) 広島県広島市 地方自治体職員(広島市企画総務局情報政策課) 修論題目: 地方自治体職員の業務関連性に着目したDX人材育成eラーニングの開発</p> <p>GSISに入学することで、それまではとある地方自治体職員で終わる予定だった人生が、GSISでの研究がIMS JAPAN特別賞を受賞し、後続研究も情報処理学会最優秀賞を受賞したことで、実践研究者へと大きく変化を遂げることとなりました。少なくとも入学以前と比べて、社会に貢献できる人材になることができた模様です。</p>
<p>立山 愛 第 15 期生(2020 年度入学) 修論題目: 外国人児童生徒等教育における校内連携体制づくりのためのシナリオ型研修の設計</p>
<p>長山 琢磨 第 15 期生(2020 年度入学) 宮城県 学校法人東北学院職員 修論題目: 実践コミュニティ設計テンプレートによる継続的な学習コミュニティ運用の再設計</p> <p>私が入学した2020年度はコロナ禍が始まったばかりの時でしたが、オンラインでの学習継続には何ら問題がなく、また効果・効率・魅力のある質の高い教育を受けられたことに感謝しています。GSISでの学びは日々の仕事や研修講師などの取り組みに活かしています。改めて良い場で学ぶことができたことに感謝する日々です。</p>
<p>馬場 友子 第 15 期生(2020 年度入学) 修論題目: 低頻度高リスク疾患・症状の看護実践のジョブエイドおよび GBS(Goal-Based Scenarios)に基づく研修の開発</p>
<p>藤江 美奈 第 15 期生(2020 年度入学) 福岡県 行政職 修論題目: 配偶者等暴力相談員を対象とした経験差を補うためのジョブエイドを用いた相談業務研修の設計</p> <p>GSISの20周年を心よりお祝い申し上げます。多様なバックグラウンドを持つ仲間や熱心な教授陣との出会いが、私のキャリアと人生に大きな影響を与えました。これからもGSISがさらなる発展を遂げ、未来のリーダーを輩出し続けることを願っています。</p>
<p>松岡 徹 第 15 期生(2020 年度入学) 修論題目: 正課外インターンシップの学びを深める自己調整学習プロセスを用いた教材の開発～Kegan構造的発達段階の3段階から4段階への移行を目指して～</p>
<p>用田 歩 第 15 期生(2020 年度入学) 修論題目: リハビリテーションにおける動機づけ介入の体系化を目指した動機づけ方略集の開発と研修設計</p>
<p>森本 秀樹 第 15 期生(2020 年度入学) 修論題目: 災害初期対応アクション・カード活用のための GBS 理論に基づくトレーニング教材の開発</p>
<p>吉田 文子 第 15 期生(2020 年度入学) 兵庫県 研修講師 修論題目: キャリアコンサルティング面談における問題把握を支援するジョブエイドの開発～初学者キャリアコンサルタントの問題把握の実践知獲得を目指して～</p> <p>20周年おめでとうございます。大学院設立から今日までご指導くださった先生方、また直接関わることは少なかったですが、陰で支えてくださったスタッフの皆様に御礼を申し上げます。ユニークで面白い先生方と個性豊かなご学友に恵まれ、学ぶことの楽しさを味わえた2年間でした。修了後も先生方や学年に関係なく修了生の方々と交流が続いていることは、人生の宝物です。ありがとうございます！</p>

落合 道夫 第 16 期生(2021 年度入学)
福岡県 福岡女学院中学校・高等学校 教諭
修論題目:学習者の概念理解と能動性を高めることを目的とした JITT による高校物理授業の実践～その方法と効果～

GSISへの入学から修了までの経験を通じて、私の人生は大きく豊かになりました。学ぶことの大切さと喜びを深く実感すると同時に、素晴らしい先生方や互いに刺激を与え合える仲間たちとの出会いにも恵まれました。これらの経験は単なる学びにとどまらず、私の人生の基盤を築く貴重な財産となっています。

GSISがこれからもさらなる発展を遂げ、多くの人々の人生を照らし続ける場となることを、心より願っております。

小野 晃裕 第 16 期生(2021 年度入学)
修論題目:「管理職のための1on1ミーティングジョブエイドの開発」プランナーとサイドキックの併用で高い研修効果を目指して

川上 亮子 第 16 期生(2021 年度入学)
コロンビア共和国ボゴタ市 日本語教師
修論題目:Can-doチェックリストを使った独習と対面学習の設計と開発 —コロンビアの日本語教育におけるストラテジー能力の修得を目的として—

創立20周年、心よりお祝い申し上げます。Gsisでの学びは、私の人生においてかけがえのない財産です。多様な視点と深い思索を養えた日々感謝するとともに、学問に励む中でただ知識を得るだけでなく、挑戦し、迷いながらも自分らしさを見つける機会をいただきました。あの時の学びが今でも私の原動力です。これからも多くの人々がGsisで新たな一歩を踏み出せることを願いつつ、貴学のさらなる発展をお祈りいたします。

駒崎 知永理 第 16 期生(2021 年度入学)
修論題目:インストラクショナルデザインの自動化を志向した図書館情報リテラシー教材作成ツールの開発

ストレスレ 梓 第 16 期生(2021 年度入学)
スイス(フリブール州) 教師
修論題目:継承日本語学習児の自律的漢字学習に繋げる思考システムの育成—プログラミング・デジタルスケッチブックを使用した授業の提案—

20周年、おめでとうございます。これからも、日本のIDとGSISの益々の発展をお祈り申し上げます。

田嶋 晶子 第 16 期生(2021 年度入学)
修論題目:GBS理論に基づく「旅行の文脈で学ぶ日本文化学習コース」の設計

外山 隆一 第 16 期生(2021 年度入学)
東京都 精密機器メーカー 人材開発部門
修論題目:企業内実践コミュニティの「初期設計支援ツール」プロトタイプの開発

GSIS20周年おめでとうございます。GSISで経験した素晴らしい学びは、私の会社人生において大きな転機となりました。最後まで懇切丁寧にご指導いただいた先生方には、本当に感謝しきれません。今後も一人でも多くの方々にGSISの門を叩いていただき、それぞれのフィールドでご活躍されることを心より祈念しております。

濱田 佳奈子 第 16 期生(2021 年度入学)
大学教員
修論題目:企業選択支援のためのワークシート開発と個別カウンセリングを通じた自己効力感の強化 —大学生の就職活動支援講座に着目して—

GSIS在籍中は地方住まいで、幼い子供の育児中でもあったため、日常生活での行動範囲は限られていましたが、さまざまな分野で活躍し、国内のみならず海外で暮らす同級生や先生方と一緒に学ぶことで、世界がぐんと広がりました。「どう教えるか」を学びながら、自分自身が「どう学ぶか」にも向き合う毎日で、教育者と学習者の双方からの気づきを得ることができた貴重な2年間でした。

<p>松本 幸子 第 16 期生(2021 年度入学) 修論題目:国際人道・開発支援従事者に向けた性暴力サバイバー対応の分岐シナリオ型 e ラーニング教材の開発</p>
<p>山本 菜穂子 第 16 期生(2021 年度入学) 大阪府 修論題目:個別化教授システムモデルに基づく授業を運用するためのプロクターのスキル養成 - 専門学校における情報リテラシー科目の実践 -</p>
<p>朝田 晴子 第 17 期生(2022 年度入学) 愛媛県 高校教員 修論題目:高等学校家庭科におけるシナリオ型eラーニング教材の開発-「自立」するための課題解決力の育成を目指して-</p> <p>GSISでの学びは、とても濃密でした。フルeラーニングで学ぶことができ、eラーニングの良さを身をもって感じることができました。また、高校教員として勤務しながら、授業や研修、部活動などの様々な場面を想定して、インスタクショナル・デザインの考え方を取り入れた教材を生み出すことができ、実践的な学びとなりました。今後も、特に家庭科の分野において、効果的、効率的で魅力的な教育設計を追究していきたいです。</p>
<p>猪田 京子 第 17 期生(2022 年度入学) 修論題目:新規事業組織における製品課題改善のための組織学習開発</p>
<p>大西 克樹 第 17 期生(2022 年度入学) 修論題目:カレッジ・レディネスを高める入学準備としての e ラーニングプログラムの設計と実践-高校から大学へのトランジション支援-</p>
<p>久保田 文子 第 17 期生(2022 年度入学) 修論題目:行動中心アプローチに基づいた日本語授業を実践するためのIDの第一原理を活用した設計 -日本語教育機関の事例から-</p>
<p>新垣 知輝 第 17 期生(2022 年度入学) 修論題目:数式を日本語として表現し質的な理解を高めるeラーニング教材の開発</p>
<p>杉 達郎 第 17 期生(2022 年度入学) 修論題目:訪問看護師がケアマネージャーと連携して業務を遂行するためのGBS理論を用いたシナリオ型 e ラーニング教材の開発</p>
<p>徳永 恵理子 第 17 期生(2022 年度入学) 修論題目:遠隔学習における動機づけ強化のための対話型 Moodle メッセージプラグイン開発 - ChatGPTによる Relevance/Confidence を喚起するメッセージの自動作成 -</p> <p>20周年おめでとうございます。GSISの皆様とのかかわりは、私の人生の大きな喜びです。次の30周年に向けて、GSISのさらなるご発展を祈念しつつ、私自身も良い変容を目指してがんばります。</p>
<p>中垣 達 第 17 期生(2022 年度入学) 修論題目:市中病院において一次救命処置の知識・技術を取得することができる学習環境の設計と評価</p> <p>20周年おめでとうございます。素晴らしい教員の皆さんと多くの仲間とともに本専攻で学ぶことが出来て光栄でした。益々のご発展をお祈り申し上げます。</p>
<p>西野 明子 第 17 期生(2022 年度入学) 修論題目:救命救急センターに従事する看護師を対象とした効率的な学びと業務遂行を支援するための研修設計～OJTを補完するマイクロラーニングの開発～</p>
<p>服部 聖子 第 17 期生(2022 年度入学) 修論題目:多様な学習者の看護技術習得と実践力向上をめざして:TCI とルーブリックを用いる反転授業の設計</p>

<p>馬場 政尚 第 17 期生(2022 年度入学) 修論題目:家庭での防災対策をナッジにより促す高校生向け防災教育プログラムの開発</p>
<p>濱崎 あゆみ 第 17 期生(2022 年度入学) 神奈川県 講師 修論題目:ブレンド型学習を用いた PBL 型授業の設計-日中間ビジネスをテーマとした協同学習-</p> <p>熊本大学大学院システム学専攻の20周年、心よりお祝い申し上げます。17期生として、学生第一主義に徹する愛情深い先生方や素晴らしい同窓生・先輩方との出会いに感謝の気持ちでいっぱいです。この専攻で学んだ知識や経験が、私のキャリアチェンジを支え、新しい人生を切り拓く原動力となりました。皆様との交流が、私の成長に寄与したことを胸に刻んでいます。今後もこの素晴らしい学びの場が発展し、多くの人々に影響を与え続けることを願っています。</p>
<p>堀田 雄大 第 17 期生(2022 年度入学) 修論題目:教員の研修動画の視聴と他者コメント及びナッジ理論を活用した研修プログラムの開発と評価</p>
<p>八百 秀憲 第 17 期生(2022 年度入学) 修論題目:知識構築を目的としたオンライン・同期的な協調学習プロセスにおける身体的相互行為支援の効果についての研究-オブジェクト指向型コラボレーションにおける洞察に着目して-</p>
<p>谷内 祐樹 第 17 期生(2022 年度入学) 修論題目:OPTIMALモデルを用いた学習指導案検討を支援する教材の開発</p>
<p>岩澤 孝徳 第 18 期生(2023 年度入学) 修論題目:生成AIを活用した短答質問作成および評価のための教師向けシステムの設計</p>
<p>江尻 寛正 第 18 期生(2023 年度入学) 岡山県 岡山県教育庁義務教育課 総括副参事 修論題目:「新たな教師の学びの姿」を実現する教員研修デザインチェックリスト及び補助教材の開発</p> <p>私の課題意識は、教員研修をいかに魅力的にできるかにありました。そのために、IDを学ぼうと思いました。その過程において、学ぶことが楽しいと改めて感じさせてもらいました。そのことにより、研修をデザインする楽しさを味わうことができるようになりました。そのきっかけを与えてくれたGSISには感謝しかありません。私のように感じる学生が増え、これからさらにGSISが発展していくことを願っています。</p>
<p>片山 謙吾 第 18 期生(2023 年度入学) 修論題目:化学物質のリスク管理の行動化を促すeラーニングコースの開発</p>
<p>河居 貴司 第 18 期生(2023 年度入学) 大阪府 新聞記者 修論題目:中等教育における批判的思考に焦点化したニュースリテラシー学習の開発</p> <p>GSIS20周年、おめでとうございます。修士課程に在籍させていただきました。働きながら学ぶという体験は、想像以上に苦しく厳しいものでしたが、先生方のご指導と同期生らの頑張りに刺激を受け、学び続けることができました。GSISは自分にとって新たな世界を提供してくれた場所でもあります。ますますのご発展をお祈りするとともに、自分も何かの形で貢献できるよう頑張っていきたいと思っています。</p>
<p>濱田 勇 第 18 期生(2023 年度入学) 東京都 職業訓練指導員 修論題目:職業訓練校におけるコンピテンシー基盤型教育の普及を目指して:訓練用教材の開発と汎用プロセスの提案</p> <p>GSIS 20周年、誠におめでとうございます。 GSISでの学びは、私自身の教育実践を見つめ直す貴重な機会となりました。それだけでなく、学び方そのものを見つめ直すきっかけにもなりました。 今後も学び続けることを通して、目の前の小さなことから着実に改善を積み重ねていきたいと思っています。 GSISがこれからも学術と実務を結びつける場として、ますます発展されることを心より期待しております。</p>

平山 祐 第 18 期生(2023 年度入学)

熊本県 熊本大学事務職員

修論題目: 外国人留学生の支援を行う日本人学生チューター向けe ラーニングプログラムの開発

GSIS20周年という節目を心からお祝い申し上げます。熊大で働きながら、オンラインで修了できるということで気になっていた大学院でしたが、ついに入學し、そして20周年という大きな節目を修了生として迎えることができ、ころよりうれしく思います。これからもさらなる発展と飛躍を遂げられることをお祈り、また熊大の一員として尽力していきたいと思ひます。改めまして、20周年おめでとうござひます！

福野 憲一 第 18 期生(2023 年度入学)

宮崎県 ソフトウェア会社, 代表取締役(自営)

修論題目: オープンソースBIツールを用いたLMS学習活動履歴の可視化による学習者動機づけに関する研究

20周年おめでとうござひます。節目の年を一緒に祝えることを、本当に嬉しく思ひます。益々のご発展をお祈り申し上げます。

星野 宏 第 18 期生(2023 年度入学)

愛知県 キャリアコンサルタント

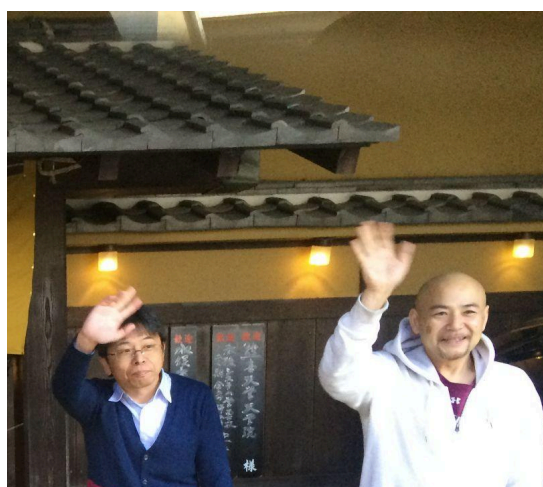
修論題目: リフレクティブサイクルを用いたキャリアコンサルタントの自己リフレクション教材の開発と有用性の評価

20周年おめでとうござひます。このような節目に携われたこと、大変光榮に感じております。私のGSISはまだまだこれからですが、先生方や先輩方のこれまで歩みから学び、さらなる発展に貢献できれば幸いです。

松島 拓路 第 18 期生(2023 年度入学)

福岡県 高等学校教員

修論題目: 情報科教員を対象としたナレッジコミュニティ型学習支援システムの構築と評価



博士(学術)

<p>宮原 俊之(2010 年度 修了) 博論題目: 高等教育機関におけるeラーニングを活用した教育活動のための効果的な支援組織体制に関する研究 ※修士課程からの進学者のため、コメント等は修士課程名簿へ掲載しています。</p>
<p>高橋 暁子(2011 年度 修了) 博論題目: 学習課題分析に基づく自己主導的な学習を支援するeラーニングシステムモジュールの開発研究 ※修士課程からの進学者のため、コメント等は修士課程名簿へ掲載しています。</p>
<p>加藤 泰久(2012 年度 修了) 東京都 大学教員 博論題目: 博論: フロー理論に着目した学習教材・学習環境の再設計支援手法に関する研究 オンライン学習環境におけるフロー経験に着目した研究に取り組み学位を取得しました。社会人として仕事と研究の両立は困難も多かったですが、その過程で得た学びと交流は、まさに“フロー”を感じる充実した時間でした。今後も研究と実践を通じて、多くの人々の学習と成長を支援していきたいと思えます。あの苦労は今となっては懐かしく、私の糧となっています。これからも、学習者に寄り添う教育実践と研究を続けていきます。</p>
<p>中嶋 康二(2013 年度 修了) 博論題目: 学習意欲を高めるARCS モデルの拡張と実践利用に関する研究</p>
<p>及川 義道(2016 年度 修了) 博論題目: 学生間の教え合いを活性化する類題生成・演習機能システムの開発研究</p>
<p>仲道 雅輝(2017 年度 修了) 博論題目: 高等教育機関で活用できるeラーニング普及推進モデルの構築に関わる実践研究 ※修士課程からの進学者のため、コメント等は修士課程名簿へ掲載しています。</p>
<p>桑原 千幸(2017 年度 修了) 大阪府 事業創造大学院大学 教員 博論題目: 進路選択自己効力向上のためのキャリア教育科目のデザインに関する研究 GSIS20周年おめでとうございます！ GSISで多くの同窓生と出会い刺激を受けたこと、合宿などで教員・学生が垣根を越えて熱く議論を交わしたこと、そして博士論文執筆に際し先生方から多大なるご指導をいただいたことが、今日の私の礎となっています。GSISのさらなる発展を心よりお祈り申し上げます。</p>
<p>石田 百合子(2019 年度 修了) 博論題目: 国立高等専門学校機構におけるアクティブ・ラーニングの組織的取組みに関する研究 ※修士課程からの進学者のため、コメント等は修士課程名簿へ掲載しています。</p>
<p>天野 慧(2019 年度 修了) 博論題目: 習得主義に基づいた研修設計を支援する手法の開発—デジタルバッジの活用に着目して—</p>
<p>ROUX PETRUS WILLEM 博士第10号(2019 年度 修了) 博論題目: DESIGNING INSTRUCTION FOR DEVELOPING CULTURAL INTELLIGENCE (CQ) IN JAPANESE HIGHER EDUCATION</p>
<p>甲斐 晶子(2020 年度 修了) 博論題目: 第二言語としての日本語学習者を対象とした自己主導型言語学習支援システムの開発 ※修士課程からの進学者のため、コメント等は修士課程名簿へ掲載しています。</p>
<p>杉木 大輔(2020 年度 修了)</p>

博論題目: 救急医療におけるチーム制を推進するための学習環境デザインに関する研究
八木 街子(2020 年度 修了) 博論題目: 看護職の遠隔学習を支援するオリエンテーションコースの開発研究
長岡 千香子(2021 年度 修了) 博論題目: “情報の入力しやすさ”に着目した学習者間のアイデア・学習リソースの共有を支援するシステムの開発および利活用モデルの構築
三井 一希(2021 年度 修了) 博論題目: 情報端末を活用した授業の実態調査に基づく小学校教師向け授業設計支援システムの開発 ※修士課程からの進学者のため、コメント等は修士課程名簿へ掲載しています。
市村 由起(2021 年度 修了) 博論題目: Ten-Dimensions Model of MOOCs for Quality Design: Implications from the Instructional Design Principles
カッティング 美紀(2021 年度 修了) 博論題目: 留学前研修の設計と評価モデルの構築
増山 純二(2023 年度 修了) 博論題目: 救急初療の看護過程学習の足場かけのデザインに関する研究
Alexey Kukharuk(2024 年度 修了) 博論題目: Designing and Evaluating an Online Professional Development Program for Early-Career University English-Language Instructors Using the Four-Component Instructional Design Model
鈴木 真保(2024 年度 修了) 博論題目: 探求の共同体に基づくインフォーマルコミュニケーションによる学びを支援する学習環境の構築
渡邊 浩之(2024 年度 修了) 博論題目: 学生チューターの成長を支援するためのツールの作成と評価



研究業績・活動

20年間で研究業績も積みあがりました。
各活動とあわせてご報告します。

2006 年度～2025 年度の研究業績

教授システム学専攻が設立された 2006 年度から 2024 年度までの研究業績を表1および図1に示す。研究業績は2015年度以降減少傾向にあり、特にコロナ禍の影響を受けた2021年度には最も少なくなった。さらに、2022年度から2023年度にかけて専任教員の退職が相次いだこともあり、2024年度現在も、コロナ禍以前の水準には回復していない。教授システム学専攻は、創設20周年を迎えた今、これまでの歩みを再評価し、新たな成長と発展を模索する転換点に立っている。近年の研究業績の減少は深刻な課題ではあるが、教育・学習の変革が求められる現代において、教授システム学が果たすべき役割はむしろ高まっている。今後は、研究領域の再編や新たな課題への挑戦を通じて、教授システム学の学術的・社会的意義を再構築していくことが求められる。

表1 2006 年度～2024 年度の研究業績

年度	学術論文		国際会議		国内学会	
	教員	アソシエート	教員	アソシエート	教員	アソシエート
2006	7	0	2	0	10	2
2007	6	1	39	2	43	10
2008	5	2	3	2	13	13
2009	10	0	3	7	19	29
2010	7	4	10	6	19	31
2011	6	6	11	3	25	34
2012	16	0	10	3	28	36
2013	8	7	19	6	36	61
2014	8	8	11	4	32	73
2015	9	11	15	1	40	57
2016	3	3	4	7	20	59
2017	7	8	3	7	19	40
2018	3	6	1	3	22	45
2019	4	9	4	1	19	29
2020	4	5	0	3	14	41
2021	5	4	1	2	8	18
2022	4	2	2	1	3	31
2023	0	4	1	0	5	42
2024	8	6	7	0	5	38

注)2006 年度～2015 年度までの数値は、教授システム学専攻同窓会編(2017)の「熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻設立10周年記念誌」p.72から引用した。2016～2024年度までの数値は、熊本大学大学院社会文化科学教育部教授システム学専攻「研究活動」ページ(http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/research_info/)を元に再集計した。研究業績の集計にあたっては、教員が第一著者である場合のみを教員の研究業績として計上し、修士が第一著者の場合は、アソシエートの研究業績として分類した。

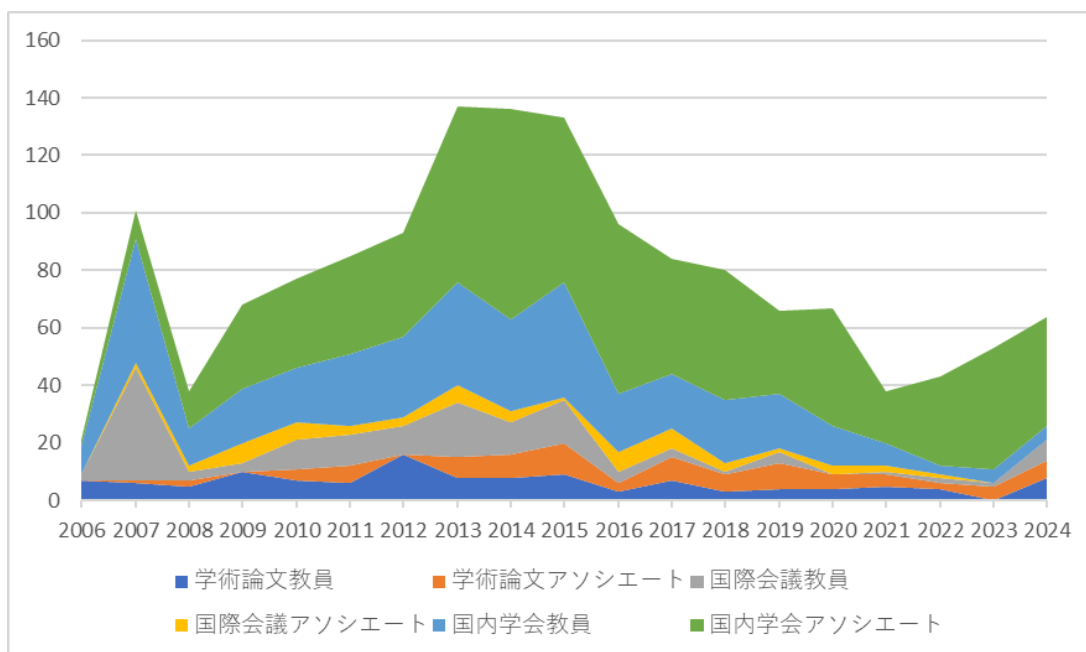


図1 2006 年度～2024 年度の研究業績(グラフ)

(文責:業績目録作成担当 山下藍)



主な研究業績リスト

ここでは学生(同窓生を含む)が筆頭著者の査読付き論文をリストします。

■ 2024年度

- 天野慧(2025)教育実践研究におけるデジタルバッジを活用する方法の違い. 日本教育工学会論文誌, 49(1):187-196.
- 抜山雄一・久保田真一郎・戸田真志・喜多敏博(2025)総合人材育成企業の若手講師のスキル習得過程. 日本教育工学会論文誌, 48(Suppl):81-84.
- 堀田雄大・中野裕司・合田美子(2024)他者コメントとナッジを組み合わせた自律的な学習を促すオンライン教員研修の開発. 日本教育工学会論文誌, 48(4):651-662.
- 吉村友希・戸田真志・久保田真一郎・鈴木克明(2025)精神障害領域作業療法における治療的態度修得のための熟考の機会を設けた授業設計と効果検証. 教育システム情報学会誌, 42(1):50-65.
- 鈴木真保・鈴木克明・戸田真志・合田美子(2024)オンライン学会における探究の共同体支援のための学習環境デザイン. 教育システム情報学会誌, 41(3):253-263.
- 菊内由貴・喜多敏博・中野裕司・鈴木克明・平岡齊士(2024)実践力習得のための研修設計の提案—学習課題の分類に基づく従来版の調査と改善—. 教育システム情報学会誌, 41(2):183-188.

■ 2023年度

- 増山純二・都竹茂樹・戸田真志・平岡齊士・鈴木克明(2023)救急初療の看護過程の症例基盤型学習における足場かけの設計. 医療職の能力開発(日本医療教授システム学会論文誌), 9(1):20-33.
- 鈴木真保・鈴木克明・戸田真志・合田美子(2023)探求の共同体支援のための学習環境デザイン—オンライン学会での試行—. 教育システム情報学会誌, 40(3):246-251.
- 田嶋晶子・鈴木克明・戸田真志・合田美子(2024)GBS 理論に基づく「旅行の文脈で学ぶ日本文化学習コース」の設計. 日本教育工学会論文誌, 47(Suppl):225-228.
- 高橋暁子・根本淳子・竹岡篤永・市川尚・鈴木克明(2023)大学版上級ID 専門家養成講座の実践. 日本教育工学会論文誌, 47(2):249-258.

■ 2022年度

- 加藤圭太・鈴木克明・合田美子・久保田真一郎(2023)通信制高校の数学における個別化教授システムを用いた単位修得のための包括的支援設計による実践. 日本教育工学会論文誌, 46(Suppl):117-120.
- 長岡千香子・喜多敏博・不破崇行・平岡齊士・中野裕司・鈴木克明(2022)Zoomミーティング上の出席・投票情報を統合しLRSへ送信するMoodleプラグインの開発. 教育システム情報学会誌, 39(3):368-373.

■ 2021年度

- 川村美好・松葉龍一・鈴木克明・中野裕司(2021)業務遂行能力にばらつきのある設計協カスタッフを対象としたTOTE モデルによる学習支援ツールの開発. 日本教育工学会論文誌, 45(Suppl):149-152.
- Cutting, M., Goda, Y., & Suzuki, K.(2021)Analysis of Behaviors Documented in Reflective Journals in Study Abroad ePortfolios to Improve Pre-Departure Training. International Journal of Educational Media and Technology, 15(1):117-128.
- 三井一希・佐藤和紀・水谷年孝・戸田真志・松葉龍一・鈴木克明(2021)タブレット端末を活用した授業事例に対する小学校教師が持つイメージの調査. 教育システム情報学会誌, 38(3):254-259.
- 高橋暁子・金西計英・根本淳子・竹岡篤永(2021)大学間連携事業におけるオンデマンド型オンライン授業の質保証を目指した設計ガイドライン準拠確認シートの開発. 教育システム情報学会誌, 38(2):156-161.

■ 2020年度

- 三井一希・戸田真志・松葉龍一・鈴木克明(2020)小学校におけるタブレット端末を活用した授業実践のSAMRモデルを用いた分析. 教育システム情報学会誌, 37(4):348-353.

- 甲斐晶子・松葉龍一・合田美子・和田卓人・鈴木克明(2020)日本語使用に関する低次段階のリフレクション記録を支援する対話型システム「REFLECTION-BOT」の設計と実装. 教育システム情報学会誌, 37(4):330-335.
- Ichimura, Y., Noda, K., Nakano, H., & Suzuki, K. (2020) Prescriptive Analysis on Instructional Structure of MOOCs: Toward Attaining Learning Objectives for Diverse Learners. *The Journal of Information and Systems in Education*, 19(1), 32-37.
- Saeki Yagi, M., Murakami, R., Tsuzuku, S., Suzuki, M., Nakano, H., & Suzuki, K. (2019) Distance Learning for Nurses: Using Learning Analytics to Build a Learning Support Program. *The Journal of Information and Systems in Education*, 19(1), 1-8.
- Peter, W. Roux., Suzuki, K., Matsuba, R., & Goda, Y. (2020) Developing Cultural Intelligence (CQ) through Experiential Learning: Considering relevance and rationale in Blended Environments. *International Journal for Educational Media and Technology*, 14(1): 29-37.

■ 2019年度

- 豊場沢子・平岡齊士・鈴木克明・都竹茂樹(2020)看護技術(運動技能)の教授方略におけるデザイン原則の開発. 医療職の能力開発(日本医療教授システム学会論文誌)
- 増山 純二・都竹 茂樹・戸田 真志・平岡 齊士・鈴木 克明(2019)救急初療看護における看護過程学習の足場かけの設計. 教育システム情報学会誌, 37(1):32-43.
- 渡邊浩之・鈴木克明・戸田真志・合田美子(2019)実践と内省を結びつけるチューター育成プログラムの開発. 教育システム情報学会誌, 36(4): 257-262.
- 石田百合子・根本淳子・松葉龍一・平岡齊士・鈴木克明(2019)同僚モデルを適用したアクティブ・ラーニング推進責任者研修の開発とデザイン原則の提案——国立高等専門学校機構での事例から——. 教育システム情報学会誌, 36(4):243-256.
- 甲斐晶子・松葉龍一・合田美子・和田卓人・鈴木克明(2019)スマートスピーカーを用いた日本語パートナードリルシステム「受身の練習」の設計と実装. 教育システム情報学会誌, 36(3):203-208.
- Amano, K., Tsuzuku, S., Suzuki, K., & Hiraoka, N. (2019) Three-stage Design of a Question-making Activity to Refine Pre-training Preparation in a Blended Training Program. *The Journal of Information and Systems in Education*, 18(1)
- Peter, W. Roux., Suzuki, K., Matsuba, R., & Goda, Y. (2019) Designing Instruction to develop Cultural Intelligence (CQ): Reporting on Blended Learning Outcomes at a Japanese University . *International Journal for Educational Media and Technology*, 13(1):27-34.
- Amano, K., Tsuzuku, S., Suzuki, K., & Hiraoka, N. (2019) Reflection Support for Novice Learners: Combining Digital Badges with Follow-Up Surveys. *International Journal for Educational Media and Technology*, 13(1):95-103.
- Amano, K., Tsuzuku, S., Suzuki, K., & Hiraoka, N. (2019) Reflection Support for Novice Learners: Combining Digital Badges with Follow-Up Surveys. *International Journal for Educational Media and Technology*, 13(1):95-103.

■ 2018年度

- 天野慧・都竹茂樹・鈴木克明・平岡齊士(2019)社会人向け教育プログラムにおける修了に対する動機づけを向上させるための個別フィードバックのデザイン. 日本教育工学会論文誌, 42(4):331-343.
- 天野慧・長岡千香子・喜多敏博・都竹茂樹・鈴木克明・平岡齊士(2019)学習者個別の情報付与と他者への公開を可能とするデジタルバッジアドオンの開発. 教育システム情報学会誌, 36(1):28-33.
- 杉木大輔・松島久雄・鈴木克明(2019)救急研修のレディネス形成を目指した初期臨床研修医eラーニング開発の試み(短報). 医療職の能力開発(日本医療教授システム学会論文誌), 6(2): 77-82.
- Peter, W. Roux., Suzuki, K., Matsuba, R., & Goda, Y. (2018) Developing cultural intelligence (CQ): Designs for blended learning. *International Journal for Educational Media and Technology*, 12(1), 18-28.
- Inoue, K., Nakashima, H., Otsuka, K., & Suzuki, K. (2018) Development and practical use of e-learning to support students during fieldwork in the local community. *International Journal for Educational Media and Technology*, 12(1), 6-17.
- Suzuki, Y., Matsuba, R., Suzuki, K., Kita, T., Kubota, S.I., & Nishino, H. (2018) Design of a Supporting System for Consultation of Instructional Improvement. *Advances in Intelligent*

■ 2017年度

- Amano, K., Tsuzuku, S., Suzuki, K., & Hiraoka, N. (2017) Designing a Digital Badge as a Reflection Tool in Blended Workshops. *The Journal of Information and Systems in Education*, 9 (1), 12-17.
- Peter, W. Roux. & Suzuki, K. (2017). Designing online instruction for developing cultural intelligence (CQ): a report from a classroom-based workshop, *International Journal for Educational Media and Technology*, 11(1), 87-96.
- Ichimura, Y. & Suzuki, K. (2017). Dimensions of MOOCs for quality design: analysis and synthesis of the literature. *International Journal for Educational Media and Technology*, 11(1), 42-49.
- Nakamichi, M., Nemoto, J., Kita, T., Nakano, H., & Suzuki, K. (2017). A Case study of the university-wide effects of e-learning promotion activities. *International Journal for Educational Media and Technology*, 11(1), 34-41.
- 長岡千香子・喜多敏博・平岡 齊士・中野 裕司・鈴木 克明 SNS等から入力した情報を共有できるシステム SharedPanel の設計と開発. *教育システム情報学会誌* 34(4), 314-318.
- 杉木大輔, 鈴木克明, 北村士朗, 喜多敏博, 都竹茂樹, 池上敬一 (2017) 救命救急センターにおけるチーム制支援のためのグループウェアを活用した診療の標準化を推進する合意形成システムの開発. *教育システム情報学会誌*, 34(3): 227-237.
- 石田百合子, 石田祐, 梶村好宏, 松葉龍一, 根本淳子, 鈴木克明 (2017) サービスラーニングの原則・基準を活用したPBL科目の授業設計・運営準備ガイドおよびワークシートの開発. *教育システム情報学会誌*, 34(2): 196-201.

■ 2016 年度

- 三井一希 (2017) 小学校国語科の「書く活動」へのプログラミング導入による学習効果. *教育システム情報学会*, 34(1), 60-65.
- 仲道雅輝・佐藤慎一・根本淳子・喜多敏博・中野裕司・鈴木克明 (2016). e-learningの全学的普及推進に向けた実践研究—効果的な普及方略に関する一考察—. *教育システム情報学会*, 33(2), 149-154.
- 高橋暁子・金西計英・松浦健二・吉田博・和田卓人 (2016). 自己評価と相互評価の差異を可視化するための携帯端末用ルーブリック評価ツールの開発と試用. *教育システム情報学会*, 33(2), 120-125.

■ 2015 年度

- 三井一希 (2016) 小学校の自習による授業時間で活用できる動画の開発と学習効果. *日本教育工学会論文誌*, 39(Suppl): 13-16.
- 谷塚光典・東原義訓・喜多敏博・戸田真志・鈴木克明 (2015) 教職eポートフォリオの活用による教育実習生の自己評価および相互コメントの効果. *日本教育工学会論文誌*, 39(3): 235-248.
- 高橋暁子・吉里孝子・本尚美・鈴木克明 (2015) 新人看護師対象フィジカルアセスメント研修における多段階オンライン練習問題の開発と実践. *教育システム情報学会*, 32(2), pp. 186-191.
- 八木(佐伯) 街子・池上 敬一・柴田 喜幸・柴 幸夫・三好 雅之 (2015) 看護学生に臨床場면을イメージさせるための教材設計の試み: ゴールベースシナリオ理論を用いたストーリー型教材の作成. *医療職の能力開発(日本医療教授システム学会論文誌)*, 3(2): 69-76
- 浅田 義和・鈴木 義彦・井上 和子 (2015) 新人看護師向け多重課題シミュレーション研修の課題と改善点~インストラクショナル・デザインによる改善~. *医療職の能力開発(日本医療教授システム学会論文誌)*, 3(2): 61-68
- 奥 典宏・真部 哲治 (2015) インストラクショナル・デザインを用いた保護者教育~食物アレルギー教室の試み~. *医療職の能力開発(日本医療教授システム学会論文誌)*, 3(2): 55-60
- 三井一希 (2015) 新人教師の授業リフレクションをサポートするグループウェアを活用した遠隔支援の事例分析(事例研究). *コンピュータ&エデュケーション*, 38: 68-73.

■ 2014 年度

- 廣庭晴香・根本淳子・戸田真志・鈴木克明(2014)医療機関の事務・サービス部門職員の能力開発を目指した学習支援システムの設計,日本教育工学会論文誌37(Suppl.)61-64.
- 桑原千幸,喜多敏博,合田美子,根本淳子,鈴木克明(2014)初年次キャリア教育目標における相互評価学習の実践と進路選択自己効力の向上.日本教育工学会論文誌,38(2):79-89.
- 仲道 雅輝・秋山 英治・清水 史(2014)インストラクショナル・デザイン(ID/教育設計)を活用した対面授業からブレンディッドラーニングへの再設計支援.愛媛大学教育・学生支援機構,大学教育実践ジャーナル第 12 号,47-54.
- 渡邊浩之,鈴木克明,戸田真志,合田美子(2014)「チュータリングガイドラインの開発と形成的評価について」リメディアル教育研究,第 9 巻第 2 号,47-58.
- 高橋 暁子・吉田 護・喜多 敏博・山田 文彦(2014)Local Knowledge を活かした減災型地域社会リーダーのコンピテンシー開発プロセス,日本教育工学会論文誌,38 巻-Suppl.号,57-60.
- 森田淳子・鈴木克明・戸田真志・合田美子(2014)自己調整学習理論に基づく日本語eラーニング教材の設計と試行-北方四島日本語講師派遣事業を例として-,日本教育工学会論文誌 38(Suppl.),77-80.
- 三井 一希・戸田 真志・松葉 龍一・鈴木 克明(2014)小学校教員を対象としたデジタルコンテンツの活用を促進する情報共有システムのプロトタイプ開発.日本教育工学会論文誌 38(Suppl.), 9-12.

■2013 年度

- 増山純二・久保田真一郎・北村士朗・鈴木克明(2014)BLS の長期定着の検証—病院内急変対応のシステム化に向けて—.教育システム情報会誌,31(1):105-109
- Nakajima, K., Nakano, H., Watanabe, A., & Suzuki, K. (2013). Proposal for the Volition Subcategories of the ARCS-V Model. International Journal for Educational Media and Technology, 7(1), 59-69.
- Oikawa, Y., Matsuba, R., Kita, T., Suzuki, K., & Nakano, H. (2013). Development of a Similar-question Generator to Support Peer Teaching. International Journal for Educational Media and Technology, 7(1), 38-49.
- 加藤泰久・喜多俊博・中野裕司・鈴木克明(2013)フロー理論に基づく学習教材・学習環境再設計支援のためのチェックリストの評価と改善.教育システム情報学会誌,30(3):200-211.
- 石井嘉明・久保田真一郎・北村士朗・喜多敏博・中野裕司(2013)柔軟な協調学習環境を実現する学習管理システム用モジュールの開発と実践.情報処理学会論文誌,55(1):105-114

■2011 年度

- 八木 秀文・喜多 敏博・根本 淳子・合田 美子・鈴木 克明 (2011) eラーニングにおける事前テストの効果的活用 —学習者状態を考慮したフィードバックによる学習効果向上—, 日本e-Learning 学会誌 Vol.11, pp.18-33
- 高橋 暁子・喜多 敏博・中野 裕司・鈴木 克明 (2012)教授者用の課題分析図作成ツールの開発-Moodle への実装と評価.教育システム情報学会,29(1):7-16
- 高橋 暁子・喜多 敏博・中野 裕司・市川 尚・鈴木 克明 (2011)課題分析図を用いた学習内容選択支援ツールの開発 -Moodle ブロックによる学習者向け機能の実装-.日本教育工学会論文誌,35(1):17-24
- 宮原俊之,鈴木克明,大森不二雄(2011)「『大学eラーニングマネジメント(UeLM)モデル』を用いた国内eラーニング事例の運営組織体制の分析」日本教育工学会論文誌35(1):1-16

■2010 年度

- 宮原俊之・鈴木克明・阪井和男・大森不二雄(2010)「高等教育機関における eラーニングを活用した教育活動を支える組織支援体制..『大学 eラーニングマネジメント(UeLM)モデル』の提案」教育システム情報学会誌 27(2):187.198
- 朴恵一・喜多敏博・根本淳子・鈴木克明(2010)「ゴールベースシナリオ(GBS)理論に基づく情報活用能力育成教育の実践」日本教育工学会論文誌 34(増刊号):165-168.
- 森田晃子・根本淳子・江川良裕・鈴木克明(2010)「MR 教育者の自主的な学習を促す学習ポータルの開発」日本教育工学会論文誌 34(増刊号):161-164.
- 村木純偉・喜多敏博・鈴木克明・根本淳子(2010)「OPTIMAL モデルチェックリストの開発」日本教育工学会論文誌 34(増刊号):177-180.

■2007 年度

- 高橋暁子・市川尚・阿部昭博・鈴木克明(2007)課題分析図に基づく自己管理学習支援型 e ラーニングシステムの開発. 日本教育工学会論文誌(ショートレター特集号),30(suppl):25.29



本専攻を題材にした学会誌論文や著書リスト

<論文>

- 長岡千香子・喜多敏博・不破崇行・平岡齊士・中野裕司・鈴木克明(2022)Zoomミーティング上の出席・投票情報を統合しLRSへ送信するMoodleプラグインの開発. 教育システム情報学会誌, 39(3): 368-373.
- 根本淳子・高橋暁子・竹岡篤永・鈴木克明(2016). eラーニング専門家養成大学院におけるコンピテンシーに基づいたポートフォリオ作成活動の試行. 教育システム情報学会, 33(2), 114-119.
- 根本淳子・竹岡篤永・高橋暁子・柴田喜幸・鈴木克明(2014)「ストーリー中心型カリキュラムによるリフレクション活動の推進と強化(特集論文)」日本教育メディア研究,20(2),23-33.
- Nemoto, J., Oyamada, M., Shibata, Y., & Suzuki, K. (2011). "Learning Sketch": A Tool for Learning Reflection Activity. International Journal for Educational Media and Technology, 5(1), 162-175.
- 【2012年度論文賞受賞】根本淳子・柴田善幸・鈴木克明(2011)学習デザインの改善と学習の深化を目指したデザイン研究アプローチを用いた実践. 日本教育工学会論文誌,35(3)(特集号:新時代の学習評価),259-268.
- Nemoto, J., Kubota, S., Migita, M., Nagai, T., Kitamura, S., Kita, T. & Suzuki, K.(2010). Design-Based Research of Authentic Learning: Lessons Learned From Improving an Online E.learning Specialist Graduate Program. The Journal of Information and Systems in Education, 9 (1), 57.68.
- 北村士朗・鈴木克明・中野裕司・宇佐川毅・大森不二雄・入口紀男・喜多敏博・江川良裕・高橋幸・根本淳子・松葉龍一・右田雅裕(2007)「eラーニング専門家養成のためのeラーニング大学院における質保証への取組:熊本大学大学院教授システム学専攻の事例」『メディア教育研究』第3巻2号(特集:e-Learningにおける高等教育の質保証への取組み) 25-35.
- 大森不二雄・根本淳子・松葉龍一・鈴木克明・宇佐川毅・中野裕司・北村士朗,(2006)「インターネット時代の教育を切り拓く大学院を目指して.インストラクショナル・デザインによるeラーニング専門家養成.」京都大学高等教育研究開発推進センター編『第12回大学教育研究フォーラム発表論文集』、48.49頁.

<著書>

- Suzuki, K. From Nine Events of Instruction to the First Principles of Instruction: Transformation of Learning Architecture for Society 5.0 (Chapter 1, pp 3-15) (2021). Blended Learning: Re-thinking and Re-defining the Learning Process. R. Li et al. (Eds.) . Springer Nature Switzerland AG.
- 根本淳子・鈴木克明(編著)竹岡篤永・高橋暁子・柴田喜幸(著)(2014)ストーリー中心型カリキュラムの設計理論と授業実践:オンライン大学院の挑戦とその波及効果.東信堂
- Suzuki, K. (2012). Japan's Kumamoto University online graduate school(Chapter 9). In I. Jung, T. M. Wong, & T. Belawati(Eds.) Quality assurance in distance education and e-learning: Challenges and solutions from Asia(pp.139-154). New Delhi: Sage Publications India.
- 松葉龍一・宮崎誠・中野裕司(2012)「Sakai CLE/OSPを利用した学習ポートフォリオシステム—熊本大学大学院教授システム学専攻における活用実践(第6章)」
- 小川賀代・小林道昭(編著)『大学力を高めるeポートフォリオ—エビデンスに基づく教育の質保証をめざして—』、p.79-94.
- 大森不二雄(2008)(編著)『IT時代の教育プロ養成戦略—日本初のeラーニング専門家養成ネット大学院の挑戦—』東信堂

注)「主な研究業績リスト」と「本専攻を題材にした学会誌論文や書籍リスト」は、教授システム学専攻同窓会編(2017)の「熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻設立10周年記念誌」p.76-77、熊本大学大学院社会文化科学教育部教授システム学専攻「研究活動」ページ(http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/research_info/)、を元に作成した。

(リスト担当:山下藍)


高等教育機関での授業設計にお悩みの方
効率・効果・魅力を高める授業設計の方法を教えます！！

(第1弾) 次世代の大学をつくる大学教員のための

教育改善スキル修得オンラインプログラム (科目デザイン編)

まずは無料
アカウント作成

無料での
学習はこちら



Go

2025年度 有料版第13期 (予定) :

募集期間: 2025年8月5日(火)~9月22日(月)

学習期間: 2025年11月21日(金)~2026年3月20日(金)

対面学習: 2025年12月20日(土)、2026年2月28日(土)

高等教育機関の現役教員の方々、
将来、高等教育機関で教育に携わりたい方々
ご利用、ご応募をお待ちしております。


教員が一方向的に話している授業からの脱却
学生の自律的な学びを促す授業設計の方法を教えます！！

(第2段) 次世代の大学をつくる大学教員のための

教育改善スキル修得オンラインプログラム (自律学習支援編)

まずは無料
アカウント作成

無料での
学習はこちら



Go

2025年度 有料版第5期 (予定) :

募集期間: 2025年6月20日(金)~8月8日(金)

学習期間: 2025年10月10日(金)~2026年2月27日(金)

対面学習: 2025年11月15日(土)、2026年2月7日(土)

高等教育機関の現役教員の方々、
将来、高等教育機関で教育に携わりたい方々
ご利用、ご応募をお待ちしております。

FD研修をご担当の皆様
教育の質と効果を高めるFD研修の設計方法を教えます！！

次世代の大学をつくる大学教職員のための

教育改善スキル修得オンラインプログラム (FD活動デザイン編)

まずは無料
アカウント作成


無料での
学習はこちら



Go

2025年度 プログラム計画:
近日公開

最新情報は
教授システム学専攻
公式ページから



Check

高等教育機関でFD研修ご担当の方、または、FD
研修ご担当予定の方々のご利用、ご応募をお待
ちしております。

効率・効果・魅力を高める授業設計の方法を教えます！！

■モジュール1：大学教育に関する5つの物語

一斉講義や定期試験、基礎からの積み上げ式教育を継続するべきか、なぜ教えない教員を目指すべきなのか等、次世代の大学教員になるための問いについて議論します。

■モジュール2：授業方法に関する7つのアイデア

教員が話す代わりに何が出来るのか、7つの効果的なアイデアをもとに一斉講義から脱却する授業方法について学んでいきます。

■モジュール3：評価方法に関する7つのアイデア

一貫性のある評価とは何か、どうすれば矛盾のない評価を実施できるのかについて学んでいきます。

■モジュール4：学習目標に関する7つのアイデア

「〇〇について理解する」、「〇〇について学ぶ」、「〇〇を覚える」といった曖昧なものではなく、明確な学習目標の立て方について学びます。また、暗記に留まらず、知識の応用を目指した学習目標について学んでいきます。

■モジュール5：最終課題（有料版のみ）

モジュール1から4までの学習を振り返り、担当授業のシラバス改善を行います。

■対面学習への参加（有料版のみ）

全2回の対面学習を実施します。モジュールでの疑問点に関する教員への質問や、受講者間での議論を通し、学びを深めていきます。

プログラムの構成 プログラムは4つのモジュールで構成されています。
(モジュール5は最終課題)

教育改善スキル修得オンラインプログラム (科目デザイン編)

プログラムID: 10000000000000000000

ホーム画面

初めてアクセスされた方へ

登録済みの受講者、また、参加予定の方へお送りして、このプログラムの学習の進捗を一覧に確認しましょう。

学習開始

モジュール1：大学教育に関する5つの物語

モジュール1では、基礎教育に関する5つの物語を紹介し、現代の大学教育について考えを深めます。ここでは大学の現状を改めて見直し、新しい大学のイメージについて議論しましょう。

学ぶ

モジュール2：協力的な方法を促す授業方法

モジュール2では、「〇〇について学ぶ」や「〇〇を覚える」といった曖昧な学習目標を、具体的な学習目標に変換するための方法を学びます。

学ぶ

モジュール3：評価と単位認定の視直し

モジュール3では評価について学びます。一貫性のある評価の重要性、適切な評価の方法について学びます。

学ぶ

モジュール4：学習目標の高度化

モジュール4では、学習目標について学びます。「〇〇について理解する」や「〇〇を覚える」などの曖昧な学習目標を、具体的な学習目標に変換する方法について学びます。

学ぶ

モジュール5：最終課題

本プログラムの最終課題として、モジュール1からモジュール4で学んだことを振り返り、自身の授業を改善します。

学ぶ

効率・効果・魅力を高める授業設計の方法を教えます！！

■モジュール1：学生が自分の学びと向き合うきっかけをつくる

入学直後の学生に自律的な学び方を断片的に学んでもらうために、自分の科目ではどのような取り組みができそうか一緒に考えていきます。

■モジュール2：自学自習を促すICT活用

学生の自律的な学習を支援するために、情報通信技術（ICT）を活用した学習管理システム（LMS）で何が出来るのか、自分の科目ではどのような取り組みができそうか一緒に考えていきます。

■モジュール3：学生が学び合う場をつくる

アクティブラーニングとは何か、アクティブラーニングをどのように授業に取り入れることができそうか、そのことによって学生の自律的な学びをどのように促すことができるのかについて学んでいきます。

■モジュール4：学生を自己調整学習者に育てる

インストラクショナルデザインの理論やモデルを教える側と学ぶ側との両方から考え、学び方を工夫するノウハウを学生にどのように身につけてもらうかについて学んでいきます。

■モジュール5：最終課題（有料版のみ）

モジュール1から4までの学習を振り返り、担当授業のシラバス改善を行います。

■対面学習への参加（有料版のみ）

全2回の対面学習を実施します。モジュールでの疑問点に関する教員への質問や、受講者間での議論を通し、学びを深めていきます。

プログラムの構成 プログラムは4つのモジュールで構成されています。
(モジュール5は最終課題)

教育改善スキル修得オンラインプログラム (自律学習支援編)

プログラムID: 10000000000000000000

ホーム画面

初めてアクセスされた方へ

登録済みの受講者、また、参加予定の方へお送りして、このプログラムの学習の進捗を一覧に確認しましょう。

学習開始

モジュール1：学生が自分の学びと向き合うきっかけをつくる

モジュール1では、入学直後の学生に自律的な学び方を断片的に学んでもらうために、自分の科目ではどのような取り組みができそうか一緒に考えていきます。

学ぶ

モジュール2：自学自習を促すICT活用

モジュール2では、学生の自律的な学習を支援するために、情報通信技術（ICT）を活用した学習管理システム（LMS）で何が出来るのか、自分の科目ではどのような取り組みができそうか一緒に考えていきます。

学ぶ

モジュール3：学生が学び合う場をつくる

モジュール3では、アクティブラーニングとは何か、アクティブラーニングをどのように授業に取り入れることができそうか、そのことによって学生の自律的な学びをどのように促すことができるのかについて学んでいきます。

学ぶ

モジュール4：学生を自己調整学習者に育てる

モジュール4では、インストラクショナルデザインの理論やモデルを教える側と学ぶ側との両方から考え、学び方を工夫するノウハウを学生にどのように身につけてもらうかについて学んでいきます。

学ぶ

モジュール5：最終課題

本プログラムの最終課題として、モジュール1からモジュール4で学んだことを振り返り、自身の授業を改善します。

学ぶ

効率・効果・魅力を高める研修設計の方法を教えます！！

■モジュール1：FDはこのままでよいのか

FDの現状を踏まえ、インストラクショナルデザインがFDにどのように活用できそうか、また、授業以外の学習支援の事例を確認しながら、FD担当者としてどのような取り組みができそうかについて学んでいきます。

■モジュール2：FD活動をアピールするための7つの提案

研修への出席率だけでなく、研修の成果をアピールしていくことができれば、FD活動への関心が高まり、より積極的に取り組めるようになるでしょう。FD活動をより客観的に評価し、その成果を確認するための方法について学んでいきます。

■モジュール3：年1回の講演会を超えるための7つの提案

研修を外部講師に丸投げにせず、お勉強に留まらない、実際の授業改善に直結した研修を共に作り、実践するための方法を学んでいきます。

■モジュール4：授業以外の学習支援の7つの提案

これまでの学習支援センターやラーニング commons の事例をもとに、授業外での学習をどのように支援できそうかについて学んでいきます。

■モジュール5：最終課題（有料版のみ）

モジュール1から4までの学習を振り返り、担当授業のシラバス改善を行います。

■対面学習への参加（有料版のみ）

全2回の対面学習を実施します。モジュールでの疑問点に関する教員への質問や、受講者間での議論を通し、学びを深めていきます。

プログラムの構成 プログラムは4つのモジュールで構成されています

教育改善スキル修得オンラインプログラム (FD活動デザイン編)

プログラムID: 10000000000000000000

ホーム画面

初めてアクセスされた方へ

登録済みの受講者、また、参加予定の方へお送りして、このプログラムの学習の進捗を一覧に確認しましょう。

学習開始

モジュール1：FDはこのままでよいのか（授業のワンランクアップに向けて）

モジュール1では、FDの現状を踏まえ、インストラクショナルデザインがFDにどのように活用できそうか、また、授業以外の学習支援の事例を確認しながら、FD担当者としてどのような取り組みができそうかについて学んでいきます。

学ぶ

モジュール2：FD活動をアピールするための7つの提案

モジュール2では、研修への出席率だけでなく、研修の成果をアピールしていくことができれば、FD活動への関心が高まり、より積極的に取り組めるようになるでしょう。FD活動をより客観的に評価し、その成果を確認するための方法について学んでいきます。

学ぶ

モジュール3：年1回の講演会を超えるための7つの提案

モジュール3では、研修を外部講師に丸投げにせず、お勉強に留まらない、実際の授業改善に直結した研修を共に作り、実践するための方法を学んでいきます。

学ぶ

モジュール4：授業以外の学習支援の7つの提案

モジュール4では、これまでの学習支援センターやラーニング commons の事例をもとに、授業外での学習をどのように支援できそうかについて学んでいきます。

学ぶ

モジュール5：最終課題

本プログラムの最終課題として、モジュール1からモジュール4で学んだことを振り返り、自身の授業を改善します。

学ぶ

教え方、教えます

インストラクショナルデザイン
入門編／応用編



入門編講師 合田美子
熊本大学教授



応用編講師 鈴木克明
熊本大学名誉教授

テクノロジー活用で実践力強化

AI・ラーニングテクノロジー活用



講師 喜多敏博
熊本大学教授

※講座名は2024年度のもの

<2025年度開催予定>

インストラクショナルデザイン入門編: 2025年9月～2025年11月(予定)

インストラクショナルデザイン応用編: 2025年12月～2026年2月(予定)

生成AI活用編／生成AI導入ハッカソン編: 2025年7月～2026年2月(予定)

詳細については、専用サイトほかにて6月公開予定

専用サイト: <https://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/koukaikouza/>



GSIS同窓会 (新規入会のご案内)



GSIS同窓会入会の手続き

1) 課程修了または単位修得退学(博士後期)をもって同窓会へ自動入会となります。
退会を希望される場合は必ず
同窓会事務局へお申し出ください。

2) 名簿作成および各種連絡のため、
プロフィールの登録をお願いします。
登録はWebから、お願いいたします。

<https://forms.gle/S4SUFdPHBj8dG3hC9>

同窓会名簿およびメーリングリストに登録完了後、
同窓会事務局から登録完了通知をお送りします。

3) 同窓会活動の運営資金のため会費の納入をお願いします。
(2012年4月7日の同窓会総会第3号議案において可決)

永久会費: 2万円

納入方法: 以下の口座へ振り込みをお願いします。

名義: クマモトダイガクダイガクインシャカイブンカカガクケンキュウカ
キョウジュシステムガクセンコウドウソウカイ
ミヤハラトシユキ

口座: 三菱東京UFJ 銀行 神保町支店(店番013) 普通 0048030

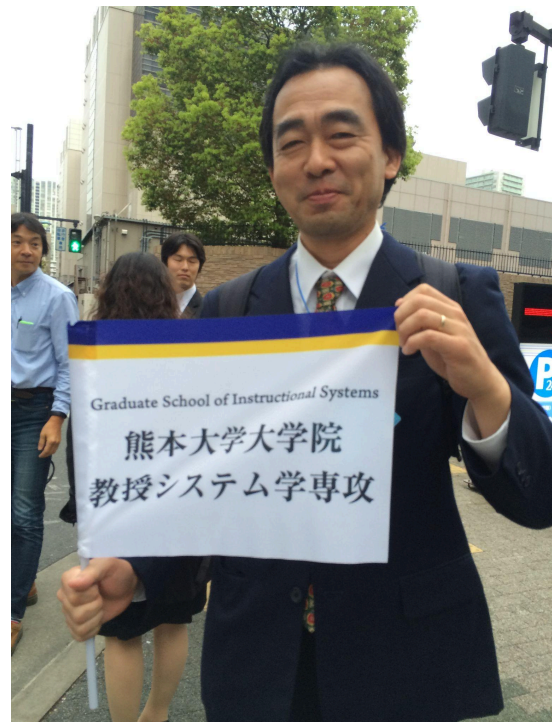
※口座名義人は、初代の会計担当の宮原氏です。

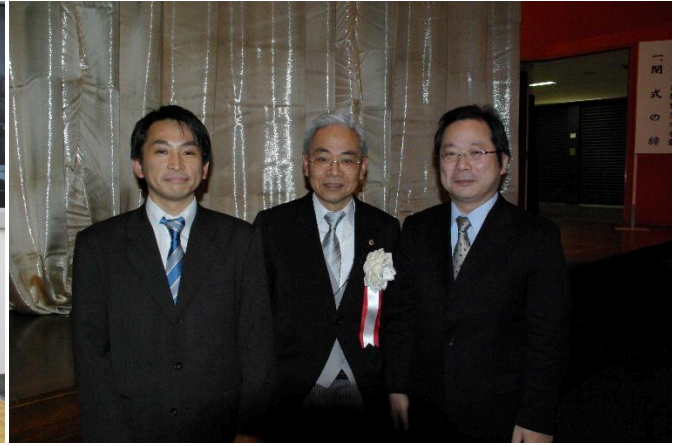
※2024年度、2025年度の入金確認と支出は同窓会会計小池が管理しています。



思い出

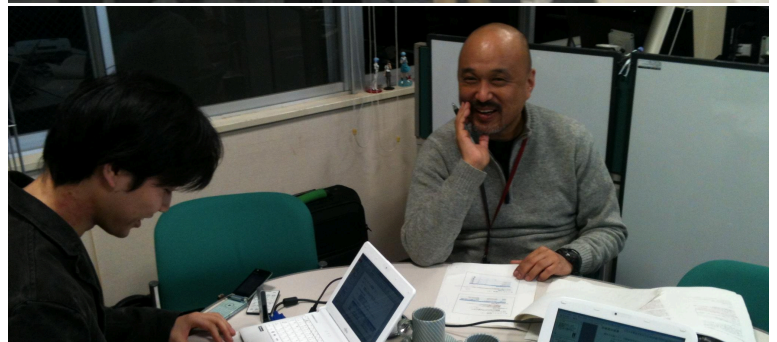
それでは、参りましょう。

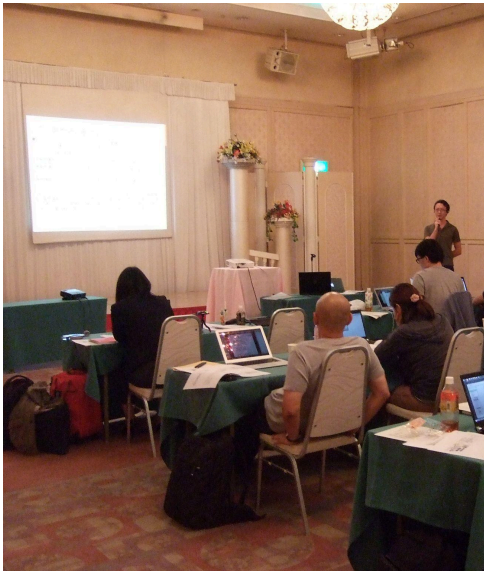




学位記伝達式 eLP 認定証授与式











研究の目的
 技術者による効果的・効率的・魅力的な支援を実現するために、企業を問わず活用可能な支援を実現するSaaSの開発を目指す。

研究の方法
 1. IDOの考え方に基いたラーニング設計のノウハウを抽出し、支援技術の開発に活用する。
 2. IDOの考え方に基いた企業支援技術の開発を目指す。

の具体的なイメージ
 シナリオ：「ト」
 シナリオ：「ト」
 シナリオ：「ト」

か考案と次に
 支援技術の開発に活用する。

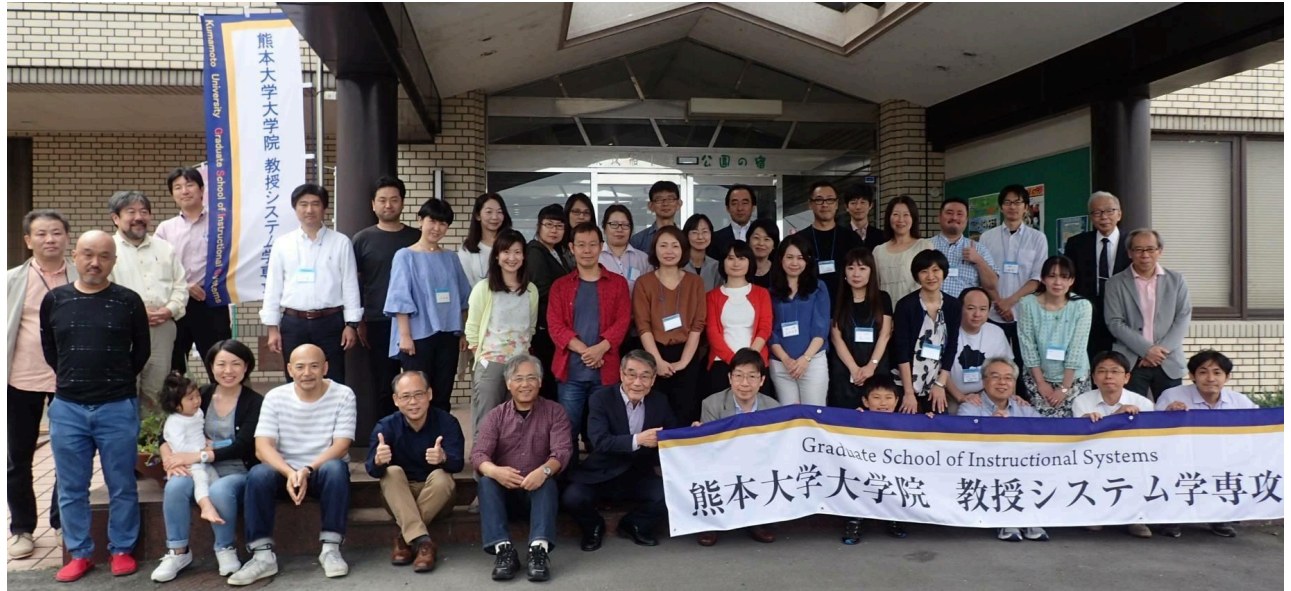
■本研究成果
 企業向けに業務を行う
 弊社の手法に基
 業の支援技術を開発

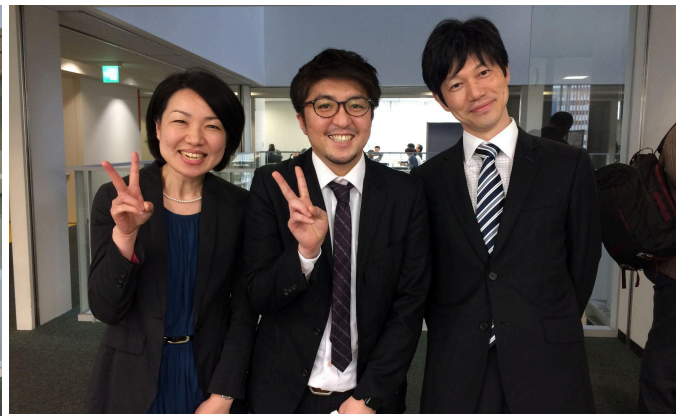
■研究方法
 1. 支援技術の開発に活用する。
 2. 支援技術の開発に活用する。
 3. 支援技術の開発に活用する。
 4. 支援技術の開発に活用する。
 5. 支援技術の開発に活用する。

深酒造
 KizunaShuzo

天使の誘惑
 日本子規節

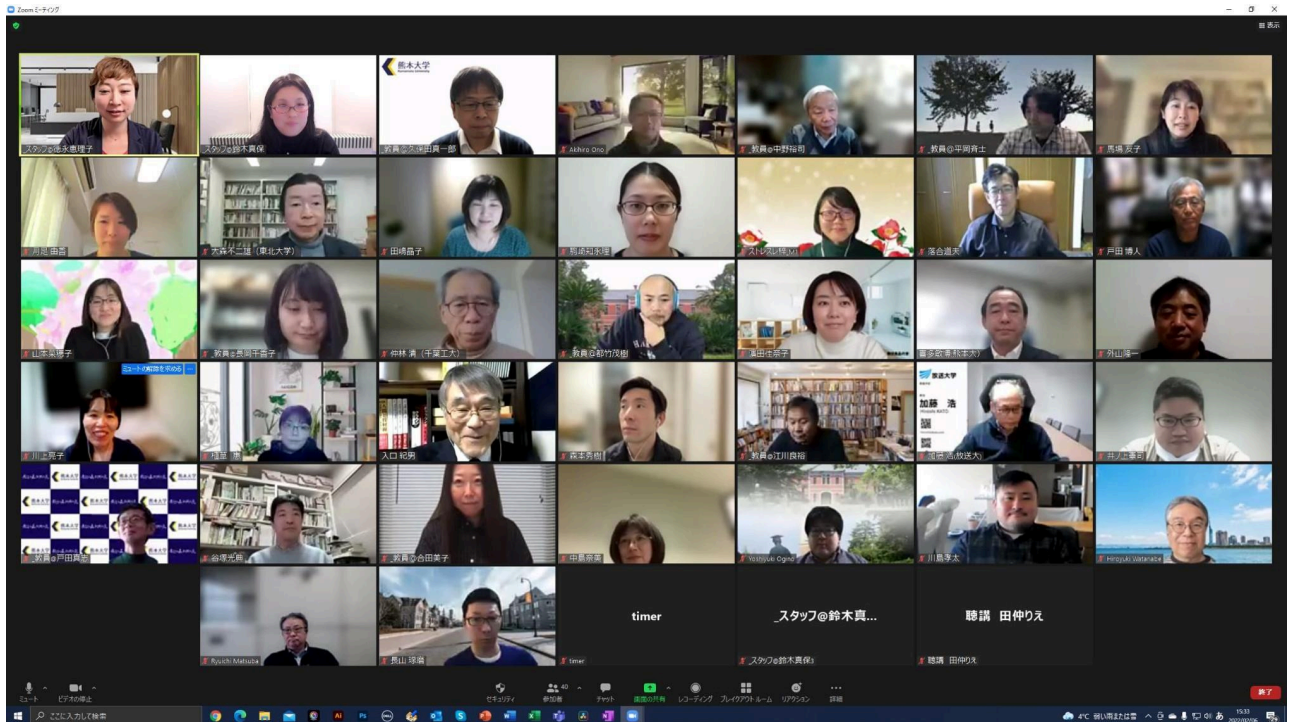
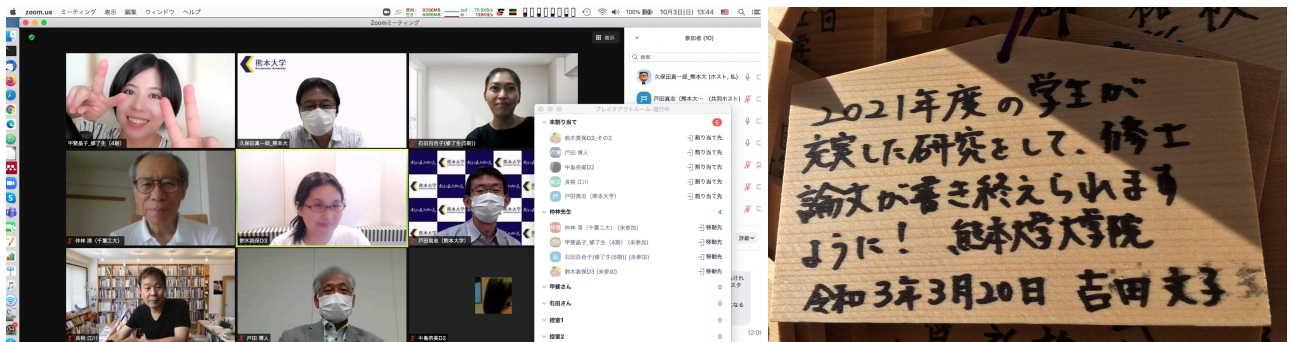
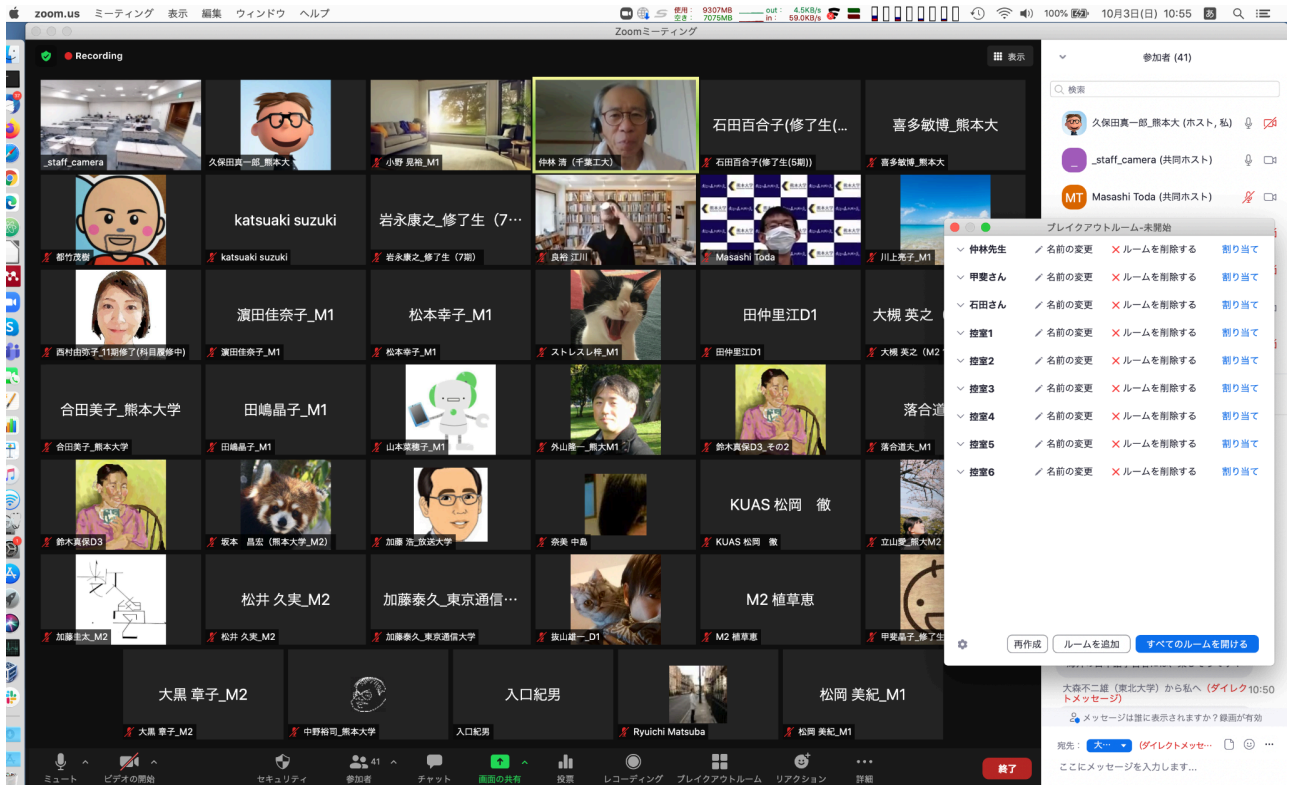








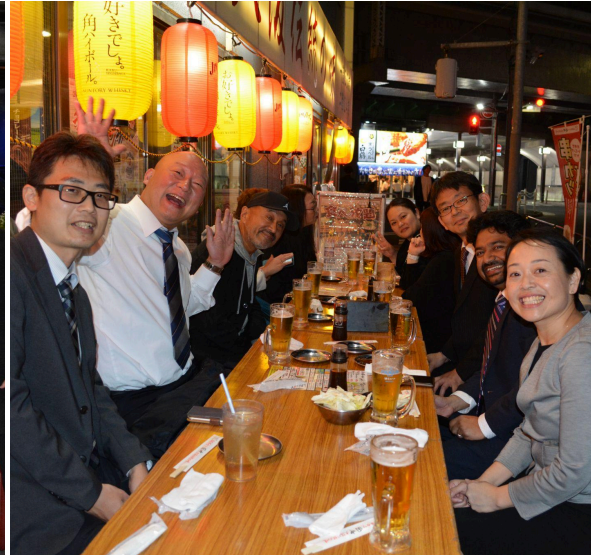














20周年記念事業

20周年を迎えるにあたり、これまでの歴史を振り返り、さらなる発展に向けた記念事業を実施しております。

- 記念行事の開催: 記念講演、シンポジウム、パネルディスカッション
- 記念誌の発行: 専攻の歴史や成果、未来への展望をまとめた記念誌
- 教育設備の整備: 次世代の教育リーダー育成を支援するための教育環境の充実

イベントカレンダー

2025年5月8日時点

実施予定時期	イベント名	場所
2024年 12月7日(土)	GSIS20プレイベント 事例研究会	名古屋
12月8日(日)	GSIS20プレイベント eラーニング連続セミナー	東京
2025年1月24日(金)	eラーニング連続セミナー	熊本
3月6日(木)~7日(金)	GSIS20プレイベント 医療教授システム学会 総会GSIS20特別セッション	東京
3月27日(木)	eラーニング連続セミナー	熊本
4月12日(土)	GSIS入科式 特別イベント	東京
5月30日(金)	eラーニング連続セミナー	オンライン
5月31日(土)	教授システム学専攻20周年 記念シンポジウム	東京コンファレンス センター品川
6月21日(土)	GSIS同窓会主催 まなばナイト	東京
8月23日(土)	GSIS同窓会主催 まなばナイト	名古屋
8月30日(土)	JSiSE全国大会 プレカンファレンス企画セッション	東京
9月	eラーニング連続セミナー	熊本&オンライン
9月27日(土)~28日(日)	JSET秋季全国大会	名古屋
10月	GSIS研究会	
10月18日(土)	GSIS同窓会主催 まなばナイト	名古屋
11月	GSISオープンスクール	オンライン
12月20日(土)	GSIS同窓会主催 まなばナイト	東京
2026年3月	JSET春季全国大会 自主企画セッション	
4月	GSIS入科式 特別イベント	東京

イベントには関連Webサイトがある場合があります。
日程や場所については、変更になる可能性もあります。

Webサイト上では、適宜、更新していきますので、最新情報は下方Webサイトをご確認ください。

寄付のお願い

教授システム学専攻20周年記念事業の実施にあたり、
同窓生や関係者の皆様からのご支援をお願いしております。

ご寄付いただきました皆さまにおかれましては、誠にありがとうございます。

引き続き、ご寄付を募っておりますので、お力添えのほど、何卒よろしくお願い申し上げます。
詳細は、Webサイトをご確認ください。

- ・熊本大学基金のウェブサイトからクレジットカードや銀行振込で寄附が可能です。
- ・Webサイト上「5. 寄付のお願い」をご覧ください。

なお、寄附者様のご芳名は、熊本大学基金や20周年記念事業のウェブサイトに掲載されますが、
月ごとに集計しているため、タイミングによっては、大変お待たせしてしまう場合がございます。
その際は、誠に恐れ入りますが、ご容赦賜りますようお願い申し上げます。

20周年記念事業 Webサイト

<https://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/20th-gsis/>



● 熊本大学大学院教授システム学専攻の歩み

2004年	12月	学長特別補佐であった中野裕司教授・大森不二雄教授・宇佐川毅教授がインストラクショナルデザイナー養成のための独立専攻設置案を含む答申を崎元達郎学長に提出(12月28日)
2005年	1月	年頭挨拶にて学長が「専攻を作ります」と宣言(1月4日)
	12月	専攻設立準備イベント「eラーニングの新展開」開催(12月19日@一橋記念講堂)
2006年	4月	教授システム学専攻 修士課程設立、第1期生15名入学、鈴木克明教授が専攻長就任
2007年	4月	eラーニング推進機構設立 大学院教育改革支援プログラム(大学院 GP)に採択(平成19年度～平成21年度)「IT時代の教育イノベーター育成プログラム(グローバル人材育成を主導できるeラーニング専門家の養成)」
2008年	3月	第1期修了生輩出(7名)
	4月	修士課程を博士前期課程に名称変更、入学定員を15名に拡充、SCC(ストーリー中心型カリキュラム)開始
	〃	博士後期課程(定員3名)を新設、第1期生3名入学
	〃	国際協力機構(JICA)の協力のもとで途上国からの留学生を迎える
2009年	1月	ランチョンセミナー開始:第1回「熊大ポリシーの目指すもの:続けない+教えない+作らない eラーニング」鈴木克明専攻長登壇(1月14日)
	4月	同窓会設立
	〃	SCCの単位化「統合型カリキュラム設計演習」開講
2010年		熊本大学拠点形成研究に採択(平成22年度～平成25年度)「職業人教育システムのイノベーション拠点形成プロジェクト」
2011年	3月	博士号第1号授与
2011年	11月	熊本大学公開講座 インストラクショナルデザイン(ID)入門編開講
2011年	12月	まなばナイト開始:第1回「ストーリー中心型カリキュラム(SCC)とは何か」TDMC社主催(12月22日@銀座熊本館2F ASOBI Bar)
2012年	11月	熊本大学公開講座 インストラクショナルデザイン(ID)応用編開講
2014年	4月	鈴木克明教授が博士前期課程専攻長、都竹茂樹教授が博士後期課程専攻長に就任
2014年		大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実採択プロジェクト「学び直しを支援する社会人教育専門家養成[短期プログラム]パッケージの開発と普及」開始
2015年	4月	専攻設立10周年記念同窓会主催特別イベント「GSIS 創世記 ～誕生日前夜から博士0号輩出まで～」開催(4月11日)
	8月	専攻設立10周年記念同窓会主催特別イベント「インストラクショナル・デザインと学習環境設計(セミナー+屋形船セッション)」開催(8月22日)
	10月	専攻設立10周年記念「同窓会ミニプロジェクト企画」開始
	12月	専攻設立10周年記念同窓会主催特別イベント「KU(熊本大学(教授システム学専攻) vs. 京都大学)対決」開催(12月5日)
2016年	4月	専攻設立10周年記念同窓会主催特別イベント「『インストラクショナルデザイン』修了後にどう生かす?」開催(4月9日)

		” 第10期生(同窓会員)が100名を突破
2017年	4月	熊本大学教授システム学研究センター(Research Center for Instructional Systems: RCiS)設立(2017年4月1日~2023年3月31日)、鈴木克明教授がセンター長就任
2018年		文部科学省教育関係共同利用拠点に採択(平成30年度~)「教授システム学に基づく大学教員の教育実践力開発拠点」
2019年		文部科学省持続的な産学共同人材育成システム構築事業に採択(令和元年~令和5年)「創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム」の中核拠点および運営拠点
	3月	教育改善スキル修得オンラインプログラム「科目デザイン編」無料版公開
	12月	履修証明書プログラム教育改善スキル修得オンラインプログラム「科目デザイン編」有料版第1期運用開始
2020年	3月	博士後期課程修了者が10名突破
	10月	教育改善スキル修得オンラインプログラム「自律学習支援編」無料版公開
	11月	履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」第1期運用開始
2021年	4月	喜多敏博教授が熊本大学教授システム学研究センター長に就任(2021年4月1日~2023年3月31日)
		” 都竹茂樹教授が博士前期課程専攻長(2024年4月1日~2023年3月31日)、戸田真志教授が博士後期課程専攻長に就任
	10月	履修証明書プログラム教育改善スキル修得オンラインプログラム「自律学習支援編」有料版第1期運用開始
2022年	4月	IDトラック、LTトラック開講
	6月	教育改善スキル修得オンラインプログラム「FD活動デザイン編」無料版公開
	7月	履修証明書プログラム教育改善スキル修得オンラインプログラム「FD活動デザイン編」有料版第1期運用開始
2023年	4月	熊本大学半導体・デジタル研究教育機構(Research and Education Institute for Semiconductors and Informatics: REISI)設立(4月1日)
		” 喜多敏博教授が博士前期課程専攻長に就任
2024年	3月	博士前期課程修了者が200名突破 熊本大学公開講座AI・ラーニングテクノロジー活用開講
	12月	開講20周年記念イベントeラーニング連続セミナー「教育革新のカギ:高等教育専門家の役割を考える」開催(12月8日)
2025年	3月	開講20周年記念イベント医療教授システム学会総会GSIS2020特別セッション開催(3月6日~7日)
	4月	第20期生21名入学
	5月	熊本大学大学院 教授システム学専攻 開講20周年記念シンポジウム「次世代の教育リーダーを育成する20年の歩みと未来へ」開催(5月31日)

編集後記

このたびの記念誌作成を通して、GSISの20年間の歩みに改めてその厚みを感じました。私は第10期の修了生ですので、ちょうどその折り返しの時期に在籍していたことになり、感慨深い思いで振り返りました。また、現在は熊本大学で勤務しながら、20周年記念事業にメンバーの一人として関わらせていただいていることにも、深いご縁を感じております。改めまして、GSISの創立と発展にご尽力されたすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

次の10年間も、さらに多くの方々がGSISに関わり、インストラクショナルデザインやラーニングテクノロジーの知見が広く社会に活かされていくことを心より願っております。同窓生として、私もその一端を担えるよう、引き続き努力してまいりたいと思います。(山下藍)

20周年記念事業実行委員

20周年記念事業実行委員長: 川村美好

熊本大学大学院教授システム学専攻教職員代表: 合田美子

20周年記念事業実行委員(50音順):

小野晃裕

加嶋多恵

徳永恵理子

福野憲一

星野宏

増永恵子

山下藍

山田紀昭

熊本大学大学院教授システム学専攻同窓会長: ワード弥生





熊本大学大学院 社会文化科学教育部
教授システム学専攻
設立20周年 記念誌

発行日
2025年5月31日

協賛
教授システム学専攻同窓会

編集
20周年記念事業実行委員